

平川市の介護予防・日常生活支援総合事業の見直しに至った経緯・検討状況

厚生労働省 地域づくり加速化事業を受けて

令和5年3月 平川市健康福祉部高齢介護課



平川市観光キャラクター
ヤーヤくん

平川市について

- ・市の総面積
346.01平方キロメートル
- ・世帯数
12,255世帯
- ・人口(令和5年1月末現在)
30,086人(男14,181人、女15,905人)
- ・65歳以上人口(令和5年1月末現在)
10,474人(うち75歳以上人口5,441人)
- ・高齢化率
34.8%(うち75歳以上18.1%)
- ・主たる産業
農業(りんご、水稻)



平川市の介護予防・日常生活支援総合事業 (総合事業)

・介護予防・生活支援サービス事業

通所・訪問共に従前相当サービスが基本

通所A型 2カ所、訪問B型 1カ所



・一般介護予防事業

てんとうむし体操教室、わくわく水中教室

体力アップ運動教室、地区介護予防教室

通いの場(18カ所)



平川市の高齢化と給付費の状況(1/2)

区分 市町村名	総人口 (人) (令和3年 度)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度に おける75歳 以上の人口 変動率(令和 4年度/平成 30年度)
		高齢者数(人)		高齢者数(人)		高齢者数(人)		高齢者数(人)		
		65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上	65歳以上	75歳以上	
平川市	30,708	10,437	5,417	10,496	5,435	10,547	5,386	10,564	5,313	99.36%
A市(青森県内)	32,530	10,680	5,280	5,356	5,356	10,973	5,366	10,935	5,291	100.07%
B市(青森県内)	31,413	11,901	6,586	11,888	6,500	11,972	6,428	11,978	6,318	98.64%
C市	29,564	11,434	6,133	11,434	6,155	11,454	6,079	11,471	5,975	99.14%
D市	26,159	9,221	5,059	9,265	5,079	9,278	5,031	9,288	4,943	99.24%
E市	34,787	11,164	5,877	11,239	5,923	11,279	5,881	11,260	5,785	99.48%
OC～E市抽出条件(平川市を起点) ・令和3年度高齢化率(75歳以上人口/総人口)前後3% ・令和3年度総人口前後5000人 ・令和3年度高齢者数(75歳以上人口)前後1000人 ・令和4年度上限額前後1,500万										

平川市の高齢化と給付費の状況(2/2)

75歳以上高齢者人口



総合事業対象経費



厚生労働省からお声がけがあった



令和4年度の総合事業費総額186,714千円のうち、上限超過額は75,269千円！

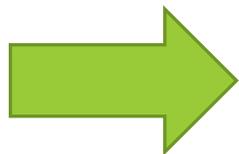
同規模の市と比較しても、伸び・額ともに非常に高い

75歳人口は微減しているのに...

本事業のお声かけを受けて感じたこと (1/2)

しかし、当市では、以下の理由により、やむを得ないのではと考えていた。

- ①社会資源が少ない。
- ②認知症初期集中支援事業に積極的に取り組んでおり、対象者の外出機会を確保するためサービスに繋いでいる。
- ③市内5カ所の在宅介護支援センターに高齢者実態把握調査を委託しており、把握した方も必要に応じデイサービスに繋いでいる。
- ④困難事例にも積極的に対応し、介護サービスの利用に繋げている。



むしろ頑張っている方ではないか？

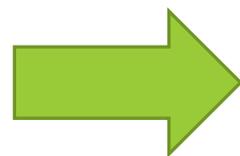
本事業のお声かけを受けて感じたこと (2/2)

・他方、通所型サービスCに行き詰りを感じていた。

問題点は以下のとおり。

- ①公募しても人が集まらない。
- ②参加者が一般介護予防事業のてんとうむし体操教室と重複している。
- ③毎年同じ方が参加している。
- ④効果が見えない。
- ⑤総合事業移行前のプログラムと同様の実施内容である。

(二次予防事業の流れのまま)



この機会を捉えて見直しに着手したい。
支援をお願いすることとした。

第1回～第4回支援を受けて

加速化事業を受けて市が見直すべきと気づいた点、今後の取り組み

・新規受付時の事業振り分けについての見直し(申請案内について)

地域包括支援センター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所での新規の受付がほぼ全て現行相当サービスの利用に繋がっている。関係者が共通認識を持って、相談内容やチェックリストの状況により振り分けのできるようになる必要がある。

➡ 介護保険等運営協議会、ケアマネジメント研修会等で関係者に現状を周知し、協力を要請する。

・通所C型の事業内容見直し

一般介護予防事業とメンバーが重複し、毎年度同じメンバーであることから、事業の見直しを行い、C型の趣旨に合った対象者に参加していただけるよう、確実に成果の出るプログラムに変える。

➡ 改善が見込める方を中心に、在宅介護支援センター、平川市スポーツ協会、理学療法士、作業療法士で話し合いながら、令和5年度において平川市の新通所C型のモデル事業を実施する。その後見直しを繰り返しながら、全市的に実施できる体制の構築を目指す。



ご清聴ありがとうございました。



世界一のねぶた(高さ約12メートル)



国指定名勝 盛美園



猿賀公園

令和4年度 地域づくり加速化事業
青森県平川市支援（プッシュ型）

市町村支援における県の役割

～青森県の場合～

青森県健康福祉部高齢福祉保険課

事業参加のきっかけ

国 「プッシュ型」

平川市指名

地域支援事業交付金の
総合事業の上限額超え
など

県 「想定外」

なぜ平川市が...?

まさに**青天の霹靂**

7年連続特A米
「青天の霹靂」



市 「承知しました」

前向きに参加を了解

通所Cの見直しにも支
援を、と前向き

本県の市町村への個別支援（地域支援事業関係に限る。）

【行っている個別支援】

- ① つどいの場（通いの場）への専門職派遣
- ② 生活支援コーディネーターの個別支援（委託事業）
- ③ その他、個別に相談があった市町村への訪問等

個別支援を行っているものの、
データを分析して、市町村の
状況をとらえ、声がけしたこ
とはなかった

加速化事業での県の動き

- ① 0. 5次ミーティング（7月15日）
- ② 第1回目支援（7月25日）
- ③ 1. 5次ミーティング（8月31日）
- ④ 第2回目支援（9月12日）
→ 他課の関係職員（健康福祉部主管課
地域共生社会担当）に出席を依頼
- ⑤ 2. 5次ミーティング（12月6日）
- ⑥ 第3回目支援（12月9日）
- ⑦ 第4回目支援（2月6日）

1.5次ミーティングから参加依頼。
以後全てに参加してもらった。



★オンライン打合せ（8月24日）

★オンライン打合せ（9月30日）

★平川市と打合せ（11月1日）

★オンライン打合せ（11月14日、21日、25日）

★平川市のSC会議に参加（11月15日）

★平川市のSC会議に参加（12月15日）
グループワーク実施（他課関係職員）

この他、随時
メール等で
アドバイザー、
国（厚生局）、
事務局の皆さん
から支援・助言
あり

(1) 平川市の困りごとは他の市町村にも共通すること

- 目の前の相談者への対応で精いっぱい。事業が何を目指しているか、見直す時間がない。
- 支援や介護が必要な状態からの成功事例が（ほとんど）ない。
- 平川市への支援は、県内市町村の困りごとの突破口となるのでは！

(2) 関係者が共通認識を持つことが大事

- 市町村（包括含む）だけでなく、在介、居宅、専門職など事業に関わる方々が同じ方向を向くことが大事。

これからの市町村支援に向けて

(1) ポイントを抑えた支援を

- ・ 青森県は少子高齢化の先進県。高齢者を含む県人口の減少に伴い、県・市町村職員の確保も難しくなっている。必要な内容、最適な方法を検討し、支援を展開する必要がある。
- ・ 個別支援から改めて広域支援の視点も必要か。

(2) 頼れるものは頼る。AIの活用も視野に入れて

- ・ 異動もあり、県・市町村職員も必ずしも専門性が高いわけではない場合も。有識者、国（厚生局含む）、庁内他課職員などに積極的に協力を求める。
- ・ 研修で育成するよりも、AIが活用できるところ（データ分析等）はするべき。

介護予防事業のこれから

～地域づくり加速化支援事業を受けて～



再生可能エネルギー推進(太陽光発電)



雪谷川フォリストパーク・軽米

おらほはこんなとこ



- 東北新幹線二戸駅から約25km
- 東北自動車道八戸線「軽米IC」
(盛岡から約100km)
- 青森県八戸市まで約30km

人口 8,461人

高齢化率 42.6%

(令和4年3月末現在)

出生数 令和3年 24人

死亡数 // 162人



軽米町ホームページ
イメージキャラクター
ヒエポン

<主な産業>

農業：米、葉タバコ、ホップ、野菜、雑穀
畜産：養鶏、養豚、肉牛

※再生可能エネルギー発電

太陽光、鶏糞発電、風力発電

軽米町の高齢者が目指す姿



雑穀の王様“アマランサス”

あるべき姿① ～まちづくりの方向性～

【まちの将来像】

一人一人の活力と思いやりが循環するまち



【基本目標②】

協働による課題解決を通じたまちの「住むよさ」の向上



【政策2】

一人一人がいきいき暮らすまちづくり



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエボン

あるべき姿②

～一人一人がいきいき暮らすまちづくり～



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン

【将来像】

1、町民一人一人が自発的に学び、スポーツ・文化活動に親しみながら、子供から高齢者まで誰もが
心身共に健康でいきいきと暮らしている。

2、高齢者が長年培ってきたそれぞれの能力を生かして元気に活動し、地域づくり、まちづくりにおける大きな原動力となっている。

通所型介護予防事業（はつらつデイサービス）の目的

**社会的孤独感の解消、自立生活の助長
及び心身機能の維持向上を図り、要介護
状態になることの予防を目的とする。**

通所型介護予防事業実施要綱より



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン



エントリーの動機

<通所型介護予防事業(はつらつデイサービス)>

- **介護予防の効果的な事業になっていない**
⇒委託先に取り組み強化を依頼する？
- **いまだ総合事業に取り組みしていない**
⇒もしかしたら「通所A」に該当する？
- **介護予防事業交付金だけでは実施できない**
⇒総合事業に取り組みれば解消する？

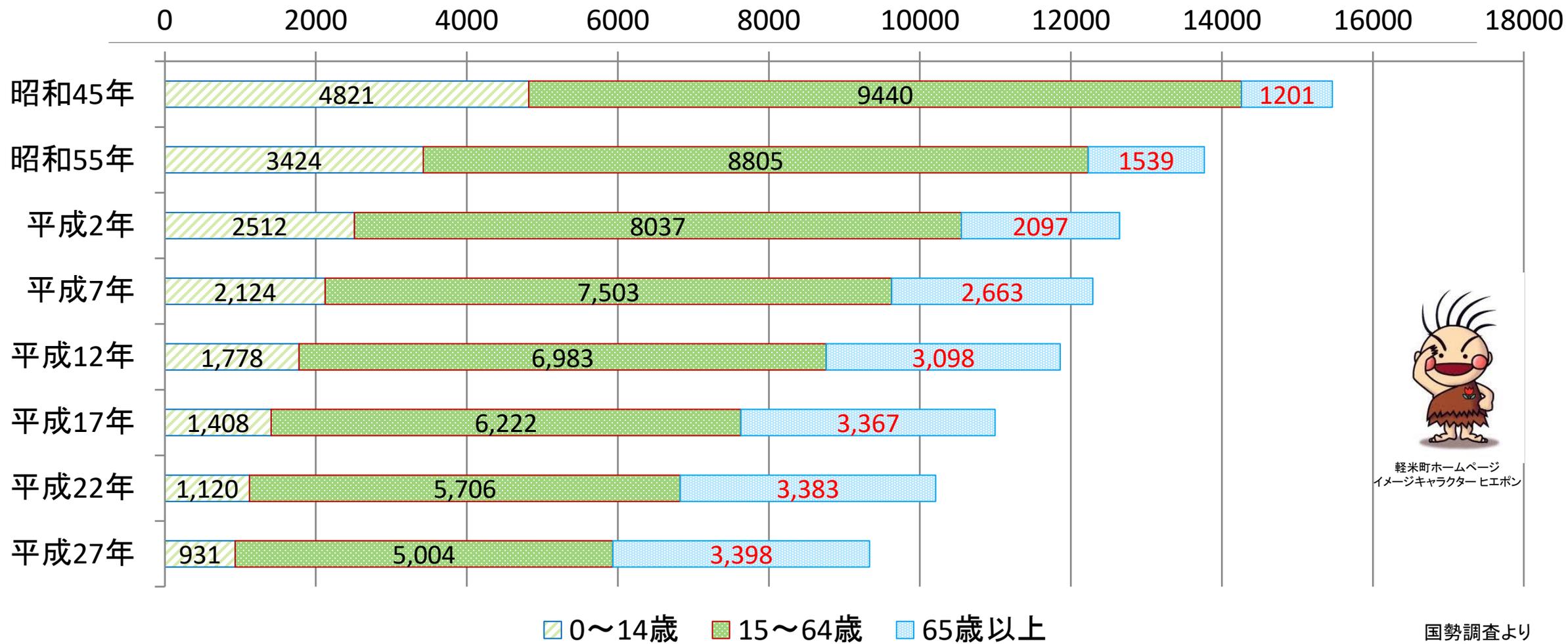
高齢者を取り巻くまちの現状



ビールの苦みのもとになる“ホップ”

軽米町の人口①

～年代別人口～

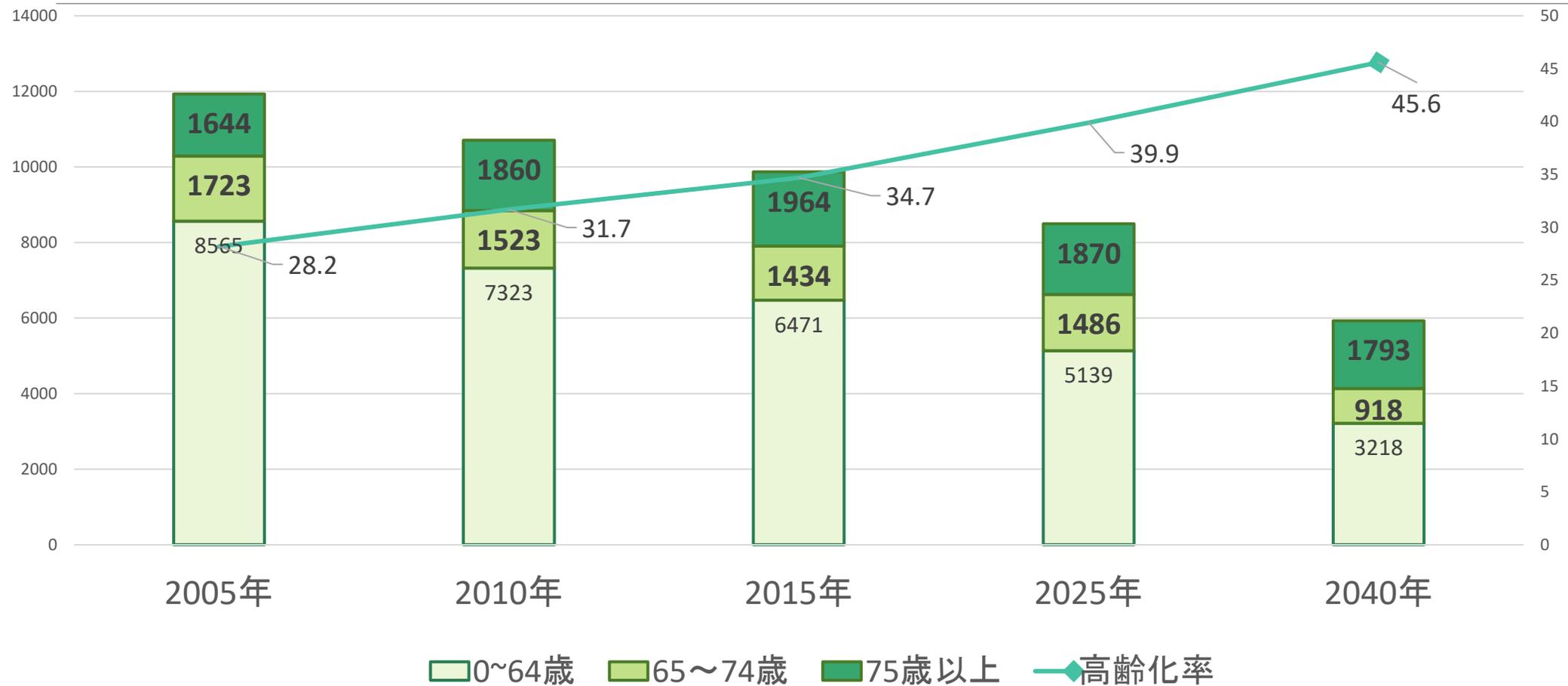


国勢調査より



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエボン

軽米町の人口② ～軽米町の高齢者数の推計～





一般介護予防事業実施状況

区分	事業名	令和3年度実績		
		会場数	実施回数	延参加者数
介護予防普及啓発事業	通所型介護予防事業 (はつらつデイサービス)	2事業所委託	96回	1,786人
	介護予防運動教室 (よさって笑って運動教室)	1事業所委託	38回	264人
	地域介護予防教室		8回	26人
地域介護予防活動支援事業	ふれあい共食事業	9会場	23回	588人
	いきいき百歳体操	5会場	175回	1,585人

通所型介護予防事業（はつらつデイサービス）利用者の状況①

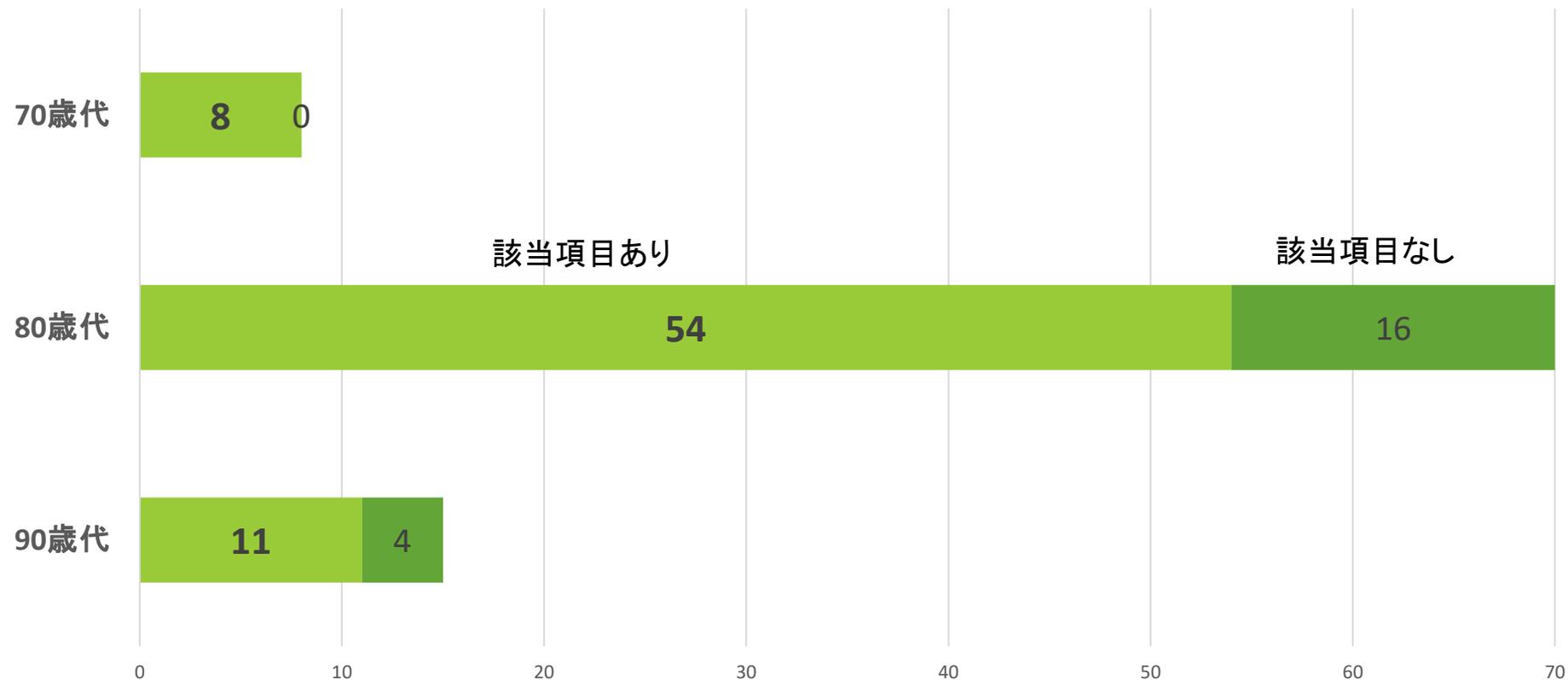
年次別申請者数（社会福祉協議会委託分）

年度	申請者数	年度途中利用中止者		
		総数	介護認定申請	死亡
令和元年	150	17	13	4
令和2年	135	4	4	
令和3年	122	12	9	3
令和4年 （7月末現在）	106	6	6	



通所型介護予防事業(はつらつデイサービス)利用者の状況②

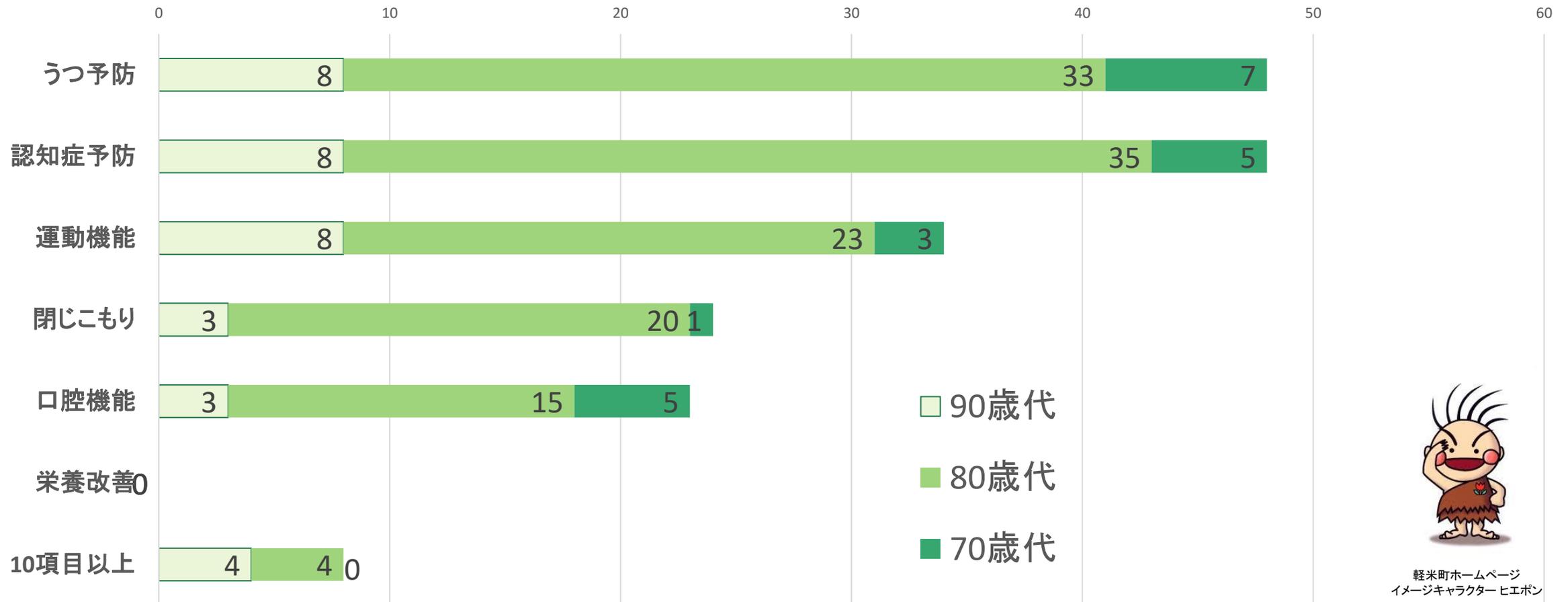
基本チェックリスト結果(R4社会福祉協議会委託分)



8
軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン

通所型介護予防事業(はつらつデイサービス)利用者の状況③

基本チェックリスト結果(R4社会福祉協議会委託分)



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエボン

介護予防事業の課題



そばの畑

① 通所型介護予防事業（はつらつデイサービス）の今後

【継続の場合】

- ・月1～2回の利用でどのような効果を期待するのか
- ・利用者が目指す「転倒予防」の役割をとれるのか

【廃止とする場合】

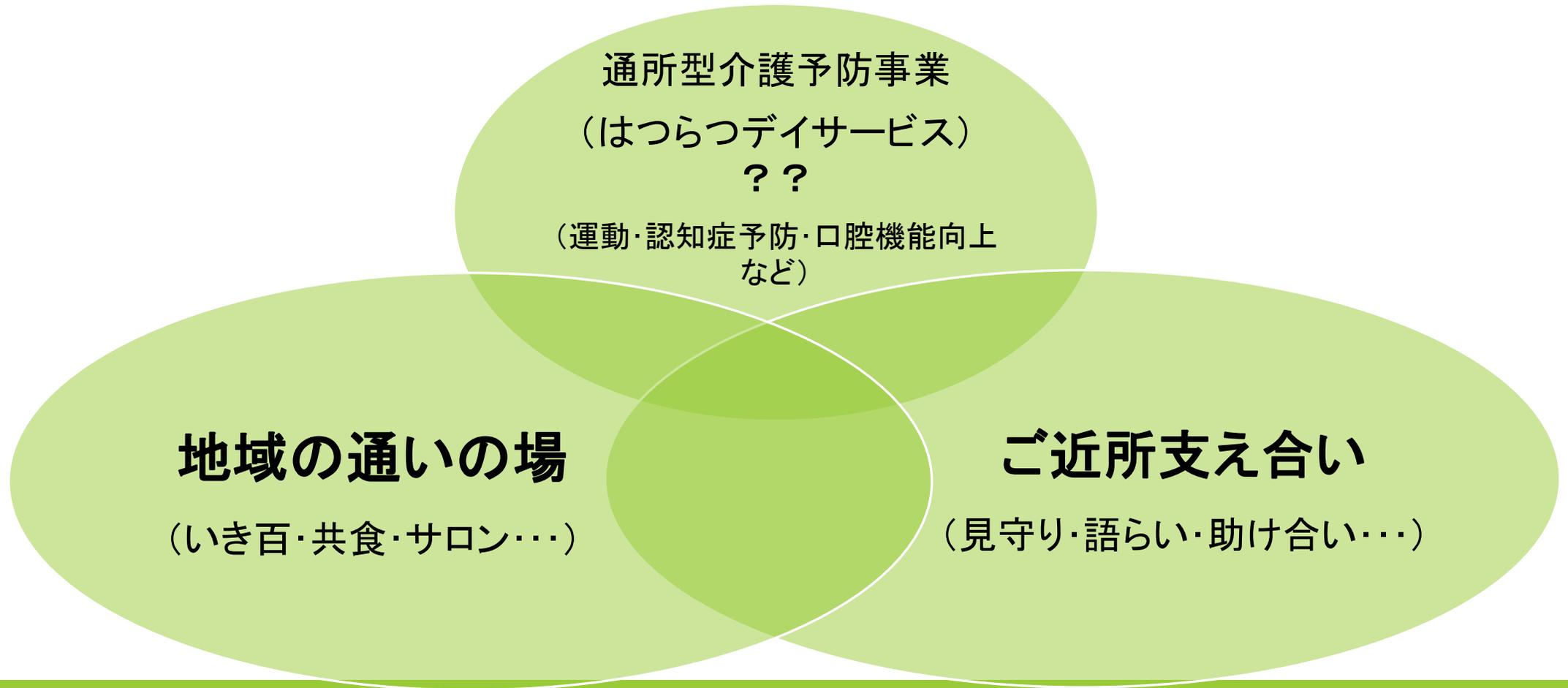
- ・利用者の反響が大きいことが予測される
- ・利用者の閉じこもりが進む？
- ・代替えのサービスの創設が必要（地域に通いの場を設ける？）



軽米町ホームページ
イメージキャラクターヒエボン



② ご近所同士で介護予防の環境づくり





③ 個人の状況に合わせた介護予防

・基本チェックリストによる効果的な介護予防プログラム実施

運動機能向上

認知症予防

うつ・閉じこもり予防

口腔機能向上 など

介護予防教室として企画・実施？

「地域づくり加速化事業」 伴走支援を得て



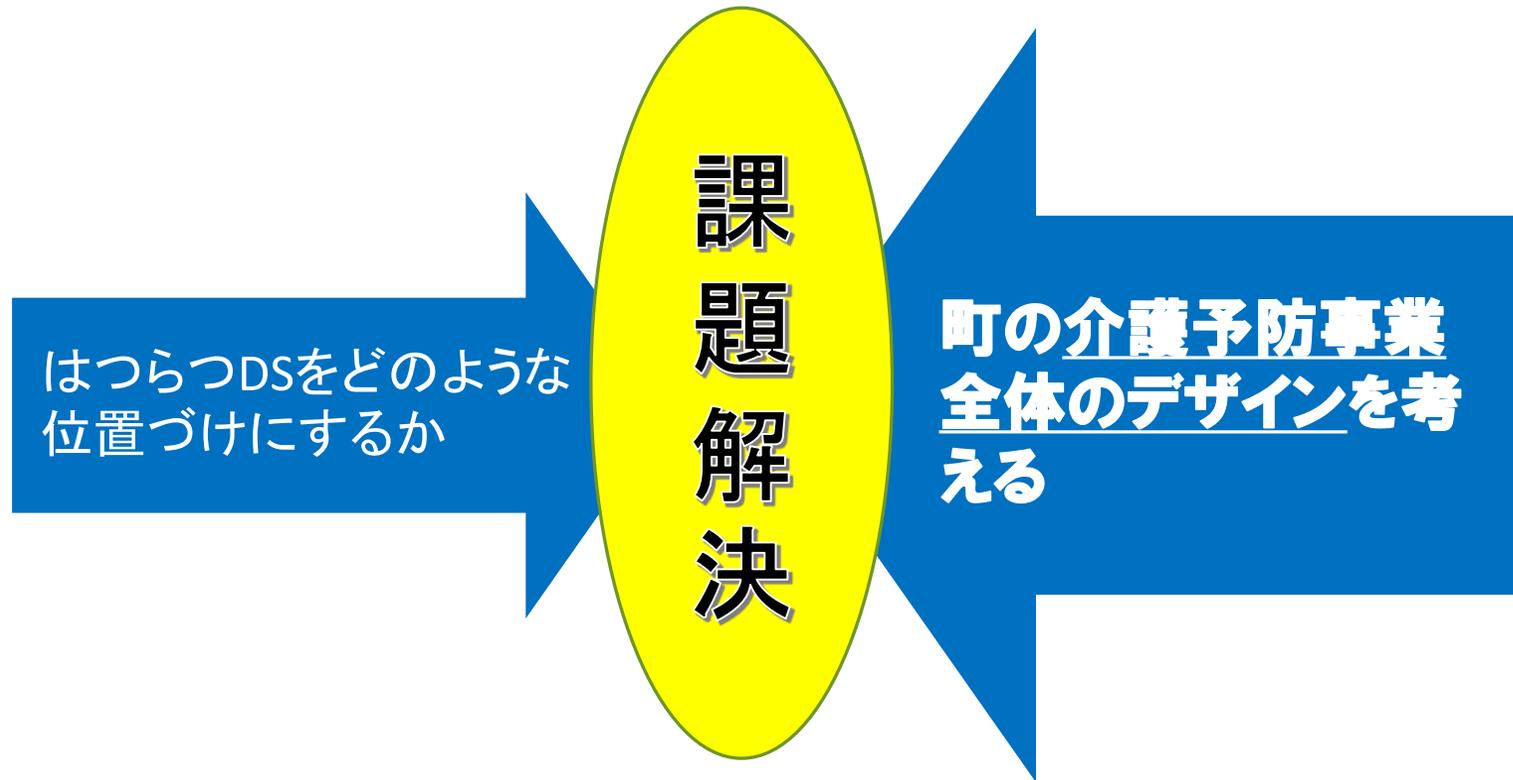
1回目支援で通所型介護予防事業「はつらっデイサービスをリサーチ」

- 利用者はとても楽しみな事業 ⇒ “**続けてやってほしい**”
利用者はサービスを利用するために
日々のスケジュール管理を行っている
- **基本チェックリストでは課題**を抱えている利用者がほとんど
- 委託先～**内容を工夫して実施している**
- **財政的には継続困難**な事業である

どうすればよいのか・・・

これは町の介護予防全体の課題 !!

1回目の支援を受けて気づいたこと





軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン



2回目支援

2022.10.28

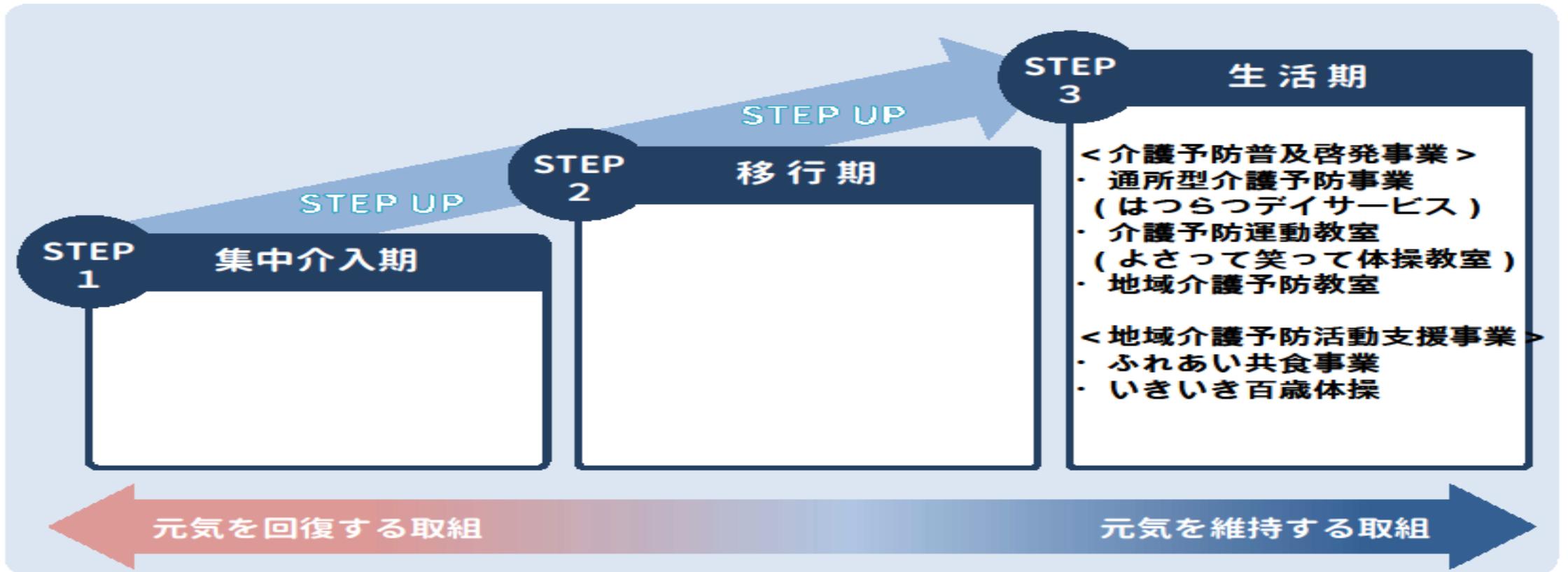
軽米町の介護予防事業



軽米町ホームページ
イメージキャラクターヒエポン

地域づくり加速化事業
令和4年10月28日(金)岩手県軽米町第2回支援

総合事業（介護予防事業）をデザイン



前回の課題①-1

通所型介護予防事業(はつらつデイサービス)

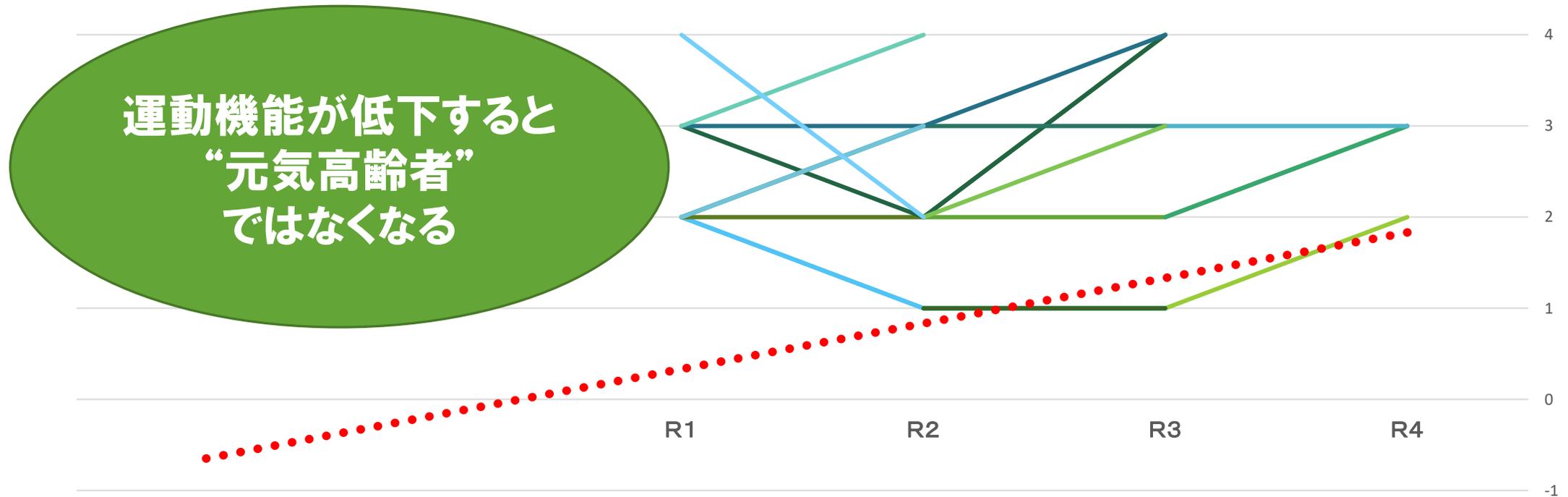
利用者の中断者の状況

(令和2年～令和4年)



軽米町ホームページ
イメージキャラクターヒエボン

基本チェックリスト「**運動機能**」チェック項目数の変化 N=18



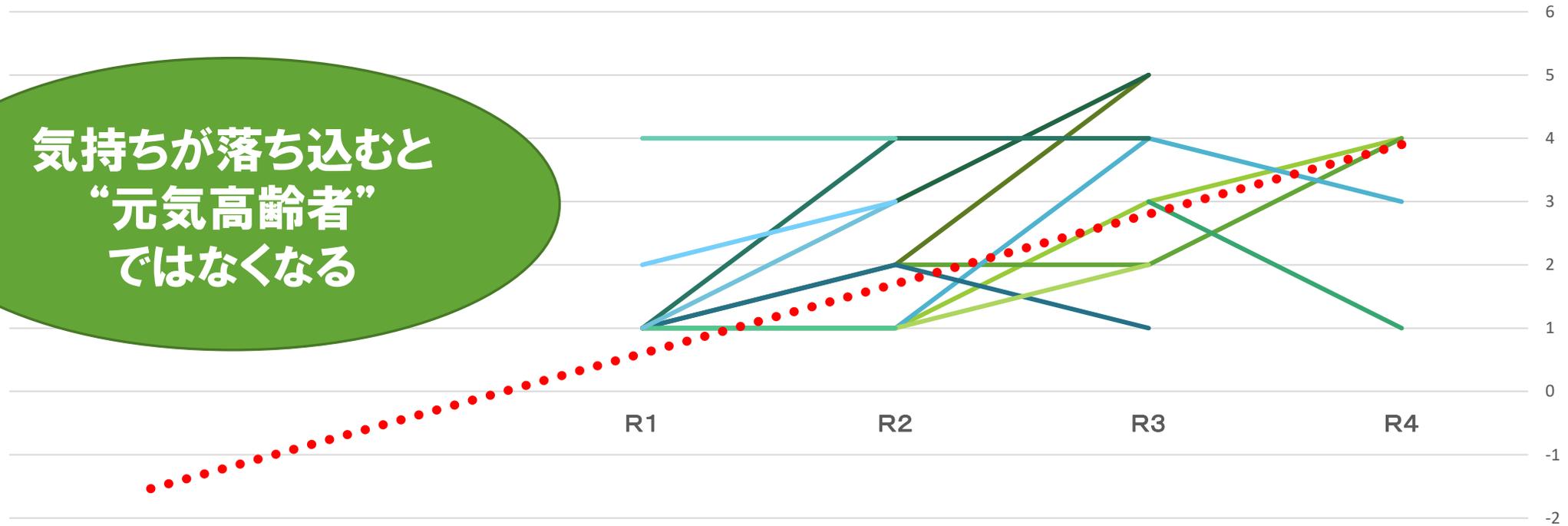
前回の課題①-2

通所型介護予防事業(はつらつデイサービス) 利用者の中断者の状況 (令和2年~令和4年)



基本チェックリスト「うつ予防」チェック項目数の変化 N=18

気持ちが落ち込むと
“元気高齢者”
ではなくなる



通所型介護予防事業（はつらつデイサービス） 利用者の聞き取り



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン

カテゴリー	コード
はつらつDSの良さ	おしゃべりがいい
	通所することが楽しみ
	体操できてよい
	はつらつDSに来るため日程調整している
今後の希望と改善への意見	送迎付きでやってほしい
	新しく体操やることも良い
	利用回数は今のまま月2回か毎週がいい
	利用料は1,000円くらいなら出してもいい
地域の状況	コロナで人と話す機会が減った
	地域にも集まる所が欲しい

通所型介護予防事業(はつらっデイサービス) 事業所の聞き取り(社協)



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエボン

カテゴリー	コード
現在の事業の状況	利用者が減少してきている
	生活が自立の人が利用する事業である
	継続実施が必要な事業である
利用者の状況	長期間利用している人がいる
	利用者の楽しみになっている
	プログラムには皆で参加している
改善してきたこと	利用者の組み合わせを工夫した
	運動の内容を変えながら実施している
事業改善への希望・受け入れ	事業費は現行並みであってほしい
	現行の体制で実施可能な内容であってほしい
	内容が変わってもある程度は受け入れ可能である

通所型介護予防事業（はつらつデイサービス） 委託側の思い



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエボン

カテゴリー	コード
現在の事業の状況	外出の機会提供
利用者の状況	基本チェックリストの課題がある人が多い
	交通手段が乏しい
現在の事業の課題	個人ごとの課題解決はできていない
	事業の見直しが必要
財政面の課題	個人負担金の値上げが必要
	委託料の見直しが必要
今後の方向性	廃止はできない事業である
	介護予防の効果を持たせた事業にする
地域の課題	地域介護予防を担う場を増やす

2回目の支援で気づいたこと

- 町全体の介護予防をどう進めるかを“まず考える”こと
- どの事業がどのような目的で行われるのかを明確にする
- 今までの事業をどう位置づけるのか
- 目的達成のために既存の事業に何を加えるか
- どのような事業が新たに必要になるのか
- 関連する事業を共通認識で進めていく
- 総合事業への取り組みは準備を整えてから…

最終的には “元気な高齢者が大勢のまち” を目指す

R5.01.17



第3回支援



リハ専門職の介入 試行してみても



<参加者から>

- ・年に1回くらいはこのようなことがあればいい
- ・普段のデイでも運動はやっているがここに来た時しかやらない

<スタッフから>

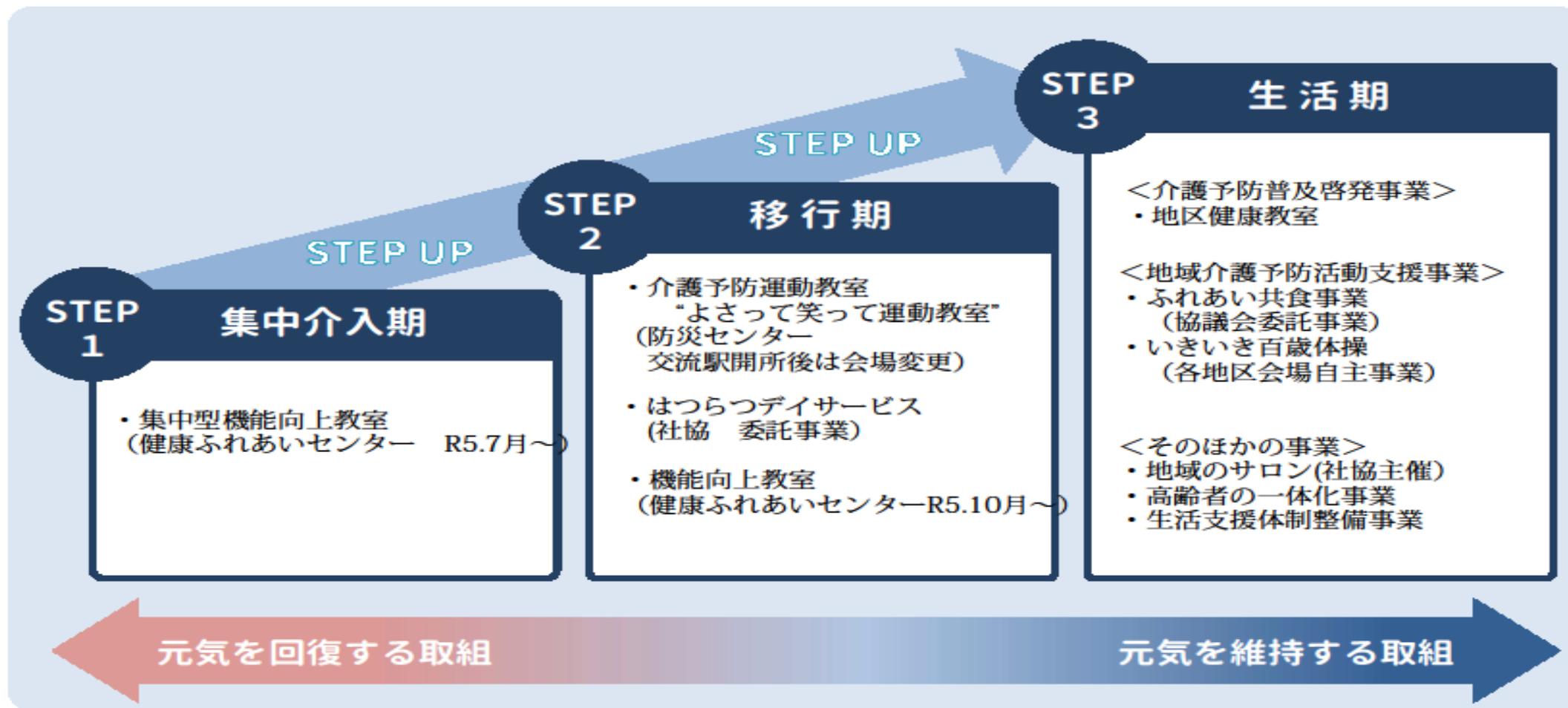
- ・いつものデイでは個別に合わせたものではないので、個々に合わせた運動方法も伝えることが必要と感じた
- ・集団で行った運動はいつものデイで行っているようなものでありこれからも継続したい

目指すおらほの「介護予防」R5年～

総合事業（介護予防事業）をデザイン



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン



介護予防事業の位置づけ



	項目	方法	会場	実施時期
集中 介入期	集中型機能向上教室 ＜介護予防ケアマネジメントA試行＞	直営	健康ふれあいセンター	新規 R5年7月～
移行期	介護予防運動教室 (よさって笑って運動教室)	委託	防災センター (交流駅)	継続
	機能向上教室 ＜介護予防ケアマネジメントB試行＞	直営	健康ふれあいセンター	新規 R5年10月～
	通所型介護予防事業(はつらつデイサービス) ＜介護予防ケアマネジメントB試行＞	委託	老人福祉センター	R5継続 R6体制検討
生活期	ふれあい共食事業 いきいき百歳体操 地区介護予防教室	直営	各地区会場	継続 ただし、新規 実施会場数増 を目指す
	その他：サロン、居場所、一体化事業、地区 健康教室 などなど			

通所型介護予防事業（はつらつデイサービス）の今後

○ 介護予防を重視した事業とするために

プログラムの見直し（運動プログラムの検討）
介護予防ケアマネジメントB試行

○ 現在の良さを生かした事業とするために

実施方法の検討継続（予算額に合わせた事業）
地域ごとに集える場の確保～地域の通いの場の充実

○ 制度に沿った事業とするために

町にあった総合事業の検討継続
総合事業実施に向けた体制整備



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン

通所型介護予防事業（はつらっデイサービス） 2023年度に取り組むこと



① 通いの場づくり

集まりやすい場所で 興味ある内容で 効果のある方法で

小単位に 町内各地にまんべんなく ⇒ **とりあえずできそうなところから！**

② 新たな通所型介護予防事業“はつらっデイサービス”の準備

デイサービスではなく 送迎付きで

今までのメンバーで過ごせるように ⇒ **可能なやり方は？**

行き慣れた場所？新たな場所？

委託？ まず予算に見合った経費でできることを

③ 短期集中型事業の試行（ケアマネジメントA試行）

まずやってみること そこから課題の解決につなげる ⇒ **OTの支援は確約済み！**

高齢者を支える町全体の仕組みづくり



軽米町ホームページ
イメージキャラクターヒエポン

ケア会議？



情報ネットワーク

貴重な支援に
感謝します



軽米町ホームページ
イメージキャラクター ヒエポン

より良い事業にするために
知恵を集めて・・・



岩手県軽米町支援報告

岩手県保健福祉部長寿社会課

医務主幹 枡内 圭子

支援において心がけたこと

- 支援に入る自治体のほか、圏域市町村の高齢化率を確認した
- 介護予防をはじめとした各種取組について確認した
- 自分の足で地域を見ることは重要と感じた

支援

工程	実施日	県対応者人数
0.5次MT	R4.7.27	1名
第1回支援	R4.8.26	1名
1.5次MT	R4.10.14	1名
第2回支援	R4.10.28	1名
2.5次MT	R4.12.16	2名
第3回支援	R5.1.17	2名

県における市町村支援の課題

- 実質、担当者一人で動いている
→ 若手職員や広域振興局（保健所）の担当者も巻き込んでいく必要性
- 県が実施している市町村支援を、市町村が知らない
→ 資料の配付だけでなく、市町村に出向いて介護予防の取組状況を聴きながら県ができる取組を周知、次年度の予算要求に反映する必要性

さいごに

この市町村支援を通じ、アピールの足りなさや、自分自身の知識不足を痛感しました。

これを機に、次年度以降の市町村支援の方向性が見えました。

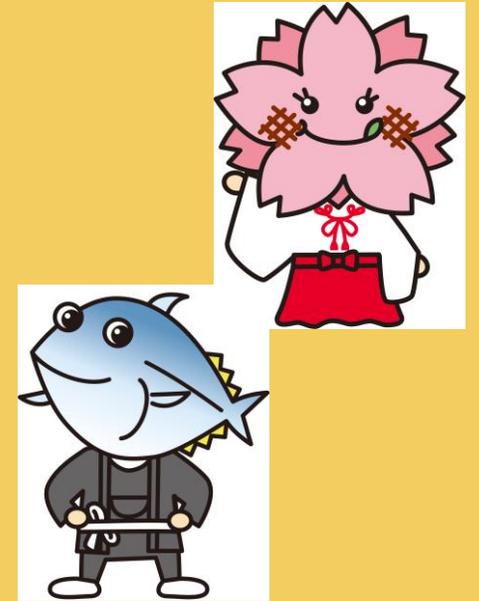
伴走支援に御協力くださいました皆様に感謝申し上げます。



わんこきょうだいこくっち



地域ケア会議について



塩竈市福祉子ども未来部高齢福祉課

塩竈市の紹介



宮城県のほぼ中央、面積は17.37km²。西南北の3方面は丘陵地に囲まれ、鹽竈神社の門前町、仙台への荷揚げ港、松島遊覧の発着所として栄えた。



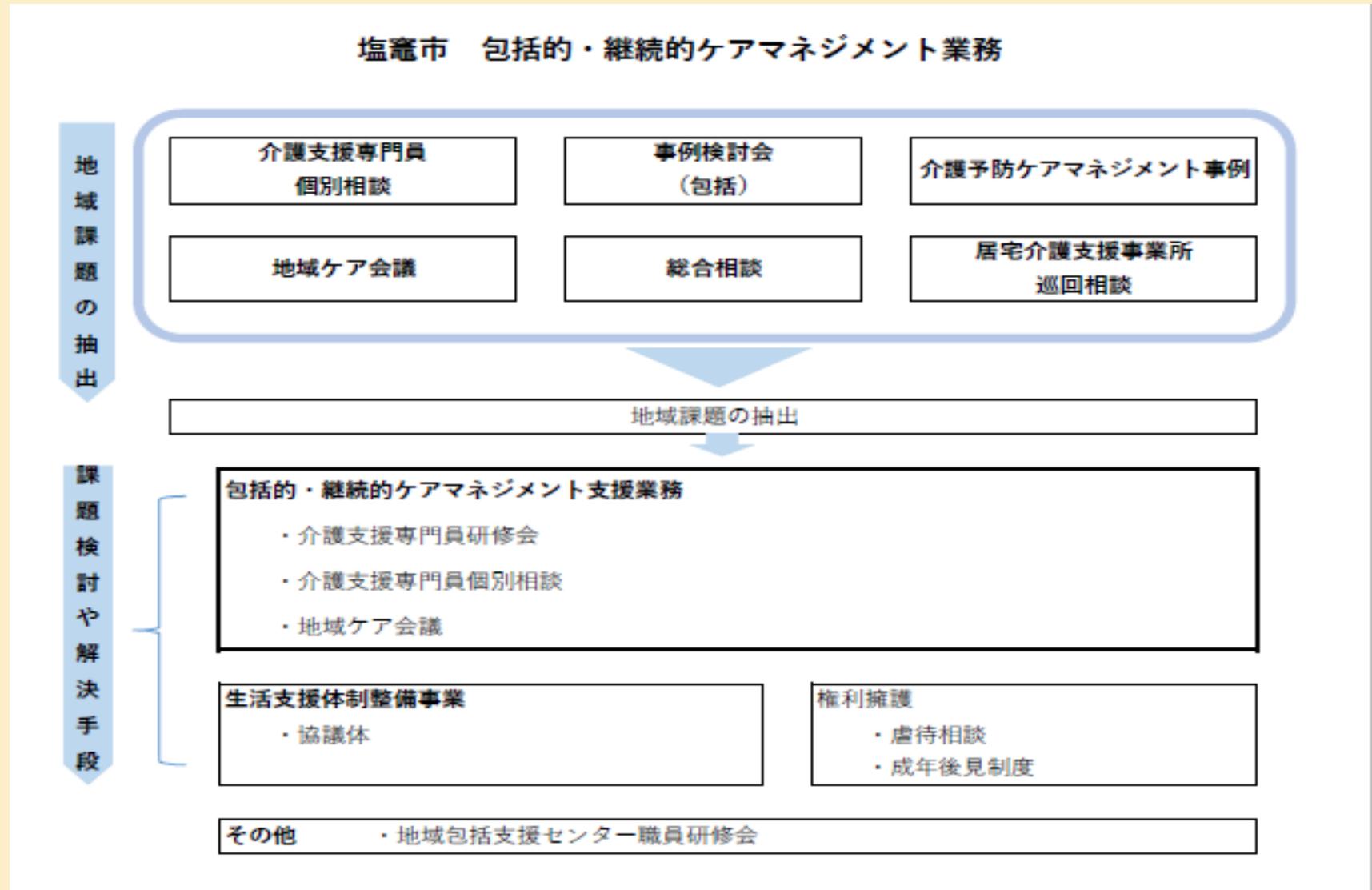
塩竈市の高齢者の状況など



総人口	52,398人
高齢者人口	18,091人
高齢化率	34.53%
75歳以上高齢者率	18.44%
浦戸地区高齢化率	73.20%
一人暮らし率 ☆※	24.1%
要介護認定率 ☆	19.0%
日常生活圏域	1か所
地域包括支援センター	5か所

令和5年1月31日現在
 塩竈市住民基本台帳より
 ☆令和4年3月31日現在
 ※宮城県高齢者人口調査

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組① 令和3年度



地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組②令和3年度

地域課題取組プラン13項目

1	認知症の方が地域で生活するための見守りと支援
2	認知症の理解
3	ケアマネジメント・自立支援
4	独居・身寄りについての実態把握
5	地域ケア会議の開催・活用
6	経済面
7	コロナ禍の活動
8	事例検討会の持ち方
9	ケアマネジャーとの連携
10	医療・介護連携
11	地域の支え合い
12	サービス拒否
13	地域アセスメント

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組③令和4年度

令和3年度13項目取組からの振り返り、各事業の取組、居宅介護支援事業所巡回相談や地域ケア会議実施状況



令和4年度の地域包括支援センターとの取組

- ① 「地域ケア会議」の充実（掘り下げる）
- ② 「地域アセスメント」と実態把握
- ③ 「自立支援のためのケアマネジメント」
- ④ 各種制度の理解

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組④令和4年度

地域ケア会議の充実にむけて取組んできたこと（振り返り）

- ①周知 ケアマネジャーへ既存の連絡会、事例検討会で説明
⇒理解は得られてきたが、開催依頼はあまりない
困難事例だけでなく、自立支援に資する会議のイメージももてたよう。
- ②開催 毎月開催した、開催できなかった等様々
- ③地域課題 毎回出すようにしている、今後の取組課題など様々

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組⑤令和4年度

地域ケア会議の取組スケジュール

- ①地域ケア会議の目的を理解する
- ②地域ケア会議を開催する
- ③地域ケア会議に必要な多職種に参加を募る
- ④支援者がネットワークを組みチームで考える支援の取組をする
- ⑤自立支援のための地域課題を分類・整理する
- ⑥地域課題のテーマを絞り、方策を話し合う
- ⑦開催の振り返りを行う

包括：会議の目的理解と課題の整理・
分類、展開について学べるとよい
ケアマネジャー：
会議の機能が発揮されるための目
的や機能理解

市：年度末の実施報告（まとめ）
の活用が課題。検証・見直しをして
みる

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組⑥令和4年度

地域ケア会議の事例59件を整理分類してみよう

KJ法

地域課題

- | | |
|--------------|----------|
| ①集合住宅の高齢化 | ⑦地域資源 |
| ②精神疾患 | ⑧移動手段 |
| ③認知症（疾患への対応） | ⑨住環境 |
| ④介護力 | ⑩見守り |
| ⑤一人暮らし・二人暮らし | ⑪生きがいづくり |
| ⑥地域の関り | ⑫意思決定支援 |

地域包括ケアシステム推進にむけて 地域包括支援センターとの取組⑦令和4年度

さらに4つのパターンで分類

パターン1
個別課題を地域課題に転換する視点

パターン2
地域包括ケアシステムの構成要素

パターン3
人とのつながりと幸福・健康の関連

パターン4
地域包括ケアシステムの構築プロセス

【特に課題として浮かび上がった項目】
⑩見守り ⑤一人暮らし・二人暮らし
⑥地域の関り ⑫意思決定支援

地域づくり加速化事業へのエントリー

理由：地域ケア会議の理解・活用・展開

深めたい
アドバイスが欲しい

地域包括支援センター

- ケアマネジャーをはじめとした関係者の理解促進
- 運営の仕方
- 地域課題の把握

市

- 個別ケースの積み重ねからの課題把握（整理の仕方）
- 地域ケア推進会議の開催・進め方

地域づくり加速化事業① ～1回目支援～

令和4年9月5日（月）15：00～17：00

説明・取組紹介

- 地域ケア会議の目的（宮城県）
- 市の現状・取組（市）
- 地域包括支援センターの取組

個別課題解決から地域包括ケアシステム実現のため手段としての地域ケア会議の理解

現状の共有
成果と課題の共有
ポジティブに取り組む！

1回目の感想

- 包括内で共通認識がもてた
- 日頃の事例から実践してみようと思った
- 日頃の活動の中でも地域課題をとらえていることが認識できた。

参加者
高齢福祉課（課長・3係長・係員）
地域包括支援センター

地域ケア会議について R4.9.5(月) 塩釜市 (黒車シート 青追加コメント)

(1) 成果 (R2~現在)

- ・会議の事前準備 (西)
- 情報共有 (市、北1、西、南東)
 - ・ ケーパ共有、資源発見
- 連携強化 (市、南東、北1、北2)
 - ・ 多職種、他機関
 - ・ 包括 ← 支援者
 - ・ 多職種 ↔ 多(他)職種 → 多職種連携・コーディネーターの確保
 - ・ 多(他)機関参加による検討
- 意識の共有・規範的統合 (市、西、南東、北2)
 - ・ 参加者の理解、スタッフの意識向上
 - ・ 意識の共有、変化 → 「どうしたらできる?」「実施してみよう!」
- 地域の共通課題へ (南東、北1、北2、西)
 - ・ 地域の視座、大規模
 - ・ 地域の人々の関わり
- ケアマネからの事例提供の増大 (南東、北2)
 - ・ ケース選定、分散(西)
 - ・ 意見を開いたか確認する(南東)
 - ・ 提供者と知る
- 南條村(南)の役割と意識 (市)
- 見守り体制 (スタッフ意識強化 (北1、北2))
- 認知症高齢者ケアの強化 (南東、北1)

(2) 地域ケア会議の今後

- チームで(南)催、多機関の参加(市) ネットワーク作り(市、北2)
- 個別会議の積み重ね(市、南、西、北1、北2)
 - ↳ 地域課題の抽出
- 本人参加(西、南東) 本人のストレスに着目(西)
- 気軽に連絡、楽しめた/良かった(南東、北2)
- 地域ケア推進会議(市)
- ケアマネ研修(市)
- 課題を抽出・分類し、地域課題の解決に向けた会議(北2)
- 8種の地域ケア会議(南東)

- 包括レベルで対応できない課題(浦戸)
- 看取り、医療につながらないケース

3) 運営上の課題

- コロナ禍での開催(市) 本人参加の意向確認
- 会議への本人参加(西、南東) 言葉が通じない(西)
- 会議の事前準備(序、進行)(西) Web会議(社) 白紙、白紙、進行表
- 専門職種の招集(南東) 進行表
- 地域課題の抽出(市、南東) (西)
- 個人的にとらえた地域課題となっている? (南東)
- 住民側との地域課題のズレ(南東、浦)
- 個別ケースの課題が多く、事業との連携が難しい(南東)
- 開催後のフィードバックの仕方(北1)
- 困難事例の課題解決のための会議が中心となってしまう(北2)
- 地域住民の参加(北2) 民生委員は参加OK → 呼びかけ方
- タイミングが合わず開催に至らない(浦戸) 地域による困難さ、住民の思い込み(浦戸)



地域づくり加速化事業② ～2回目支援に向けた取組～

今後の取組

地域ケア会議のテーマで何をしようとしてきたか

- ①地域ケア会議の目的を理解する
- ②地域ケア会議を開催する
- ③地域ケア会議に必要な多職種の参加を募る
- ④支援者がネットワークを組みチームで考える支援の取組をする

2回目支援の取組課題

- ⑤自立支援のための地域課題を分類・整理する

研修企画！

地域づくり加速化事業③ ～2回目支援 I～

令和4年11月11日（金）13：30～17：15

参加者：高齢福祉課（課長・3係長・係員）
地域包括支援センター（管理者・主任介護支援専門員）

説明・ワークショップ

- 地域包括ケアシステム構築のプロセスにおける地域ケア会議の役割（宮城県）
- 地域ケア会議の取組状況（包括）
- 地域包括ケア推進のための地域ケア会議の活用

地域づくり加速化事業④ ～2回目支援 II～

ワークショップ

「地域包括ケア推進のための地域ケア会議の活用」

■ 「こうなったらいいな！」の洗い出し



■ 共通課題の設定



■ 課題についての話し合い準備



【解決できたこと・今後の具体的な取組：参加者感想より】

- ワークショップは、具体的な手法や楽しんで前向きに考えていくことを体験でき参考になった。
- 今後のテーマを想定できた参加者もあり、今後のステップとなった。
- 地域ケア会議の位置づけがあいまいで、地域ケア会議の進め方として認識しづらかった。



地域づくり加速化事業⑤ ～3回目支援に向けた取組～

今後の取組
市としての課題に取り組む！

地域課題のテーマを絞り、方策を出し合う

推進会議開催にむけて

3回目支援の取組課題

市と包括で取り組んできた地域課題の分類整理をどう活かすか！

地域づくり加速化事業⑥ ～ 3回目支援 ～

説明・ワークショップ

令和5年1月11日（水）13：00～17：00

参加者：高齢福祉課（課長・2係長・係員）

■資料報告：市の課題の共有

■ワークショップ：「地域ケア推進会議を考える」

市の課題から推進会議テーマを抽出する

※いつまでも自分らしく生き生きと暮らせることの実現を阻むものは？

↓

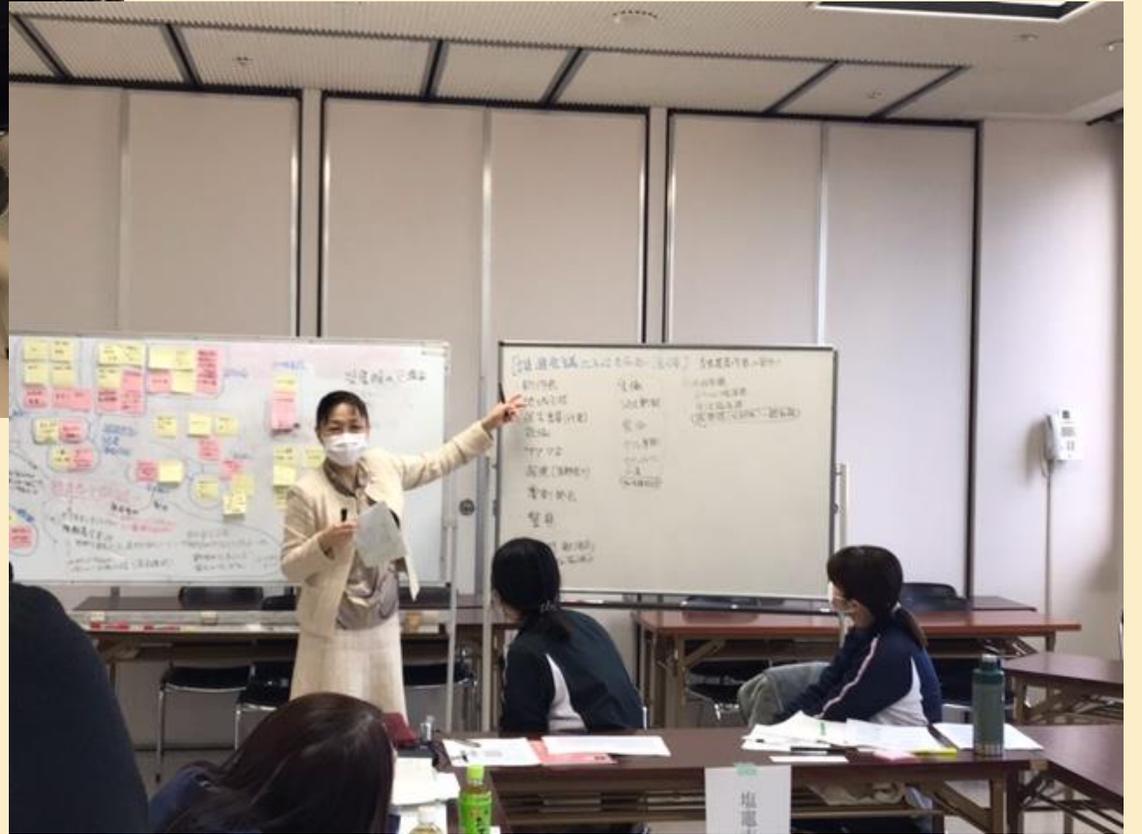
得たい成果を考える（実現した時の状況を描く）

↓

得たい成果を得るための参加者を考える

↓

具体的な日にちを考える



地域づくり加速化事業⑦ まとめⅠ

成果

【市】

- 課内で課題の共有や推進会議の企画を通し地域課題からの展開を描くことができた。
- 推進会議のイメージをもてたことで、前向きな気持ちになった。
- 付箋やホワイトボードなどの活用により意見やまとめの見える化を学べた。
- 県から、定量的データの提供や説明があり、参考になった。繰り返しの説明を受け、地域ケア会議の位置づけがより明確になった。

【包括】

- 地域ケア会議の目的や位置づけの確認ができた。
- 課題解決に向けてのワークを通し、具体的な手法や楽しんで前向きに考えていくことを体験できた。（楽しみを味わった）
- 今後の取組のテーマを想定できた

地域づくり加速化事業⑧ まとめⅡ

- 加速化事業は、振り返ると、地域包括ケアシステム推進のための地域課題を課内や地域包括支援センターと整理し共有する後押しの一いつなつたと感じる。
- 今後についてですが、課題を一緒に取り組んでいく住民や関係機関と共有し、資源や取組、事業などの展開を具体的に考えていきたい。
- 地域ケア会議はそのための有効な手段となるように各地域包括支援センターの個別支援会議、市の介護予防個別会議、地域ケア推進会議と有機的な連動を考えてきたい。



ご清聴ありがとうございました

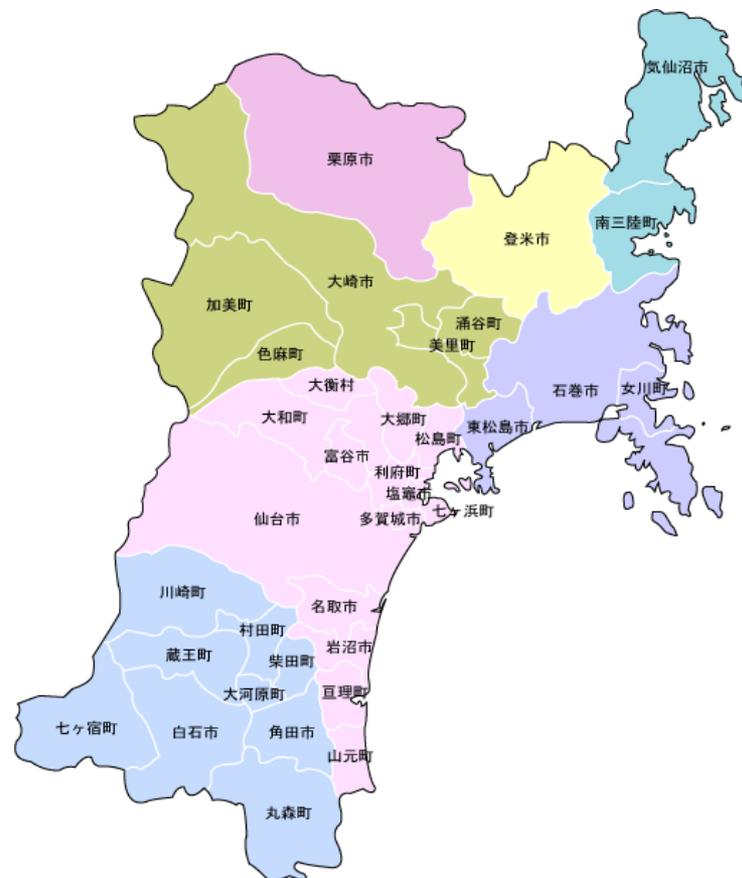


地域づくり加速化事業報告会

【宮城県】

宮城県の高齢者の概要

- 総人口：2,259,662人（1,025,673世帯）
（前年と比較して0.6%減少）
- 高齢者人口：651,351人
（前年と比較して0.8%増加）
- 高齢化率：28.8%
（前年と比較して0.4ポイント上昇）
- 後期高齢者人口：322,418人
- 後期高齢者割合（総人口に占める割合）：14.3%
（65歳以上人口に占める割合）：49.5%
- ひとり暮らし高齢者世帯数：145,121世帯
（65歳以上人口に占める割合）：22.2%



（令和4年3月31日時点）

県による市町村支援（宮城県）

目的

各市町村がその強みを活かし、地域の実情に応じた総合事業等を効果的・効率的に展開でき、そこに住む高齢者の普通の暮らしを支えることができるようになる。

県の役割

- 情報提供（制度、全国及び県内の実態、先行事例等）
- 現状分析支援（ありたい姿、現状、課題の整理）
- 関係団体との繋ぎ（庁内、委託先等関係団体との連携強化）
- 広域的支援（客観的視点での支援）
- 専門的支援（専門的助言等）
- 担当者への精神的サポート



手段

- ◆ メール・電話，通知，研修等での情報提供
- ◆ 研修会，会議，情報交換会の開催
- ◆ アドバイザー及び県職員派遣によるアウトリーチ型支援

県による市町村支援（宮城県）

県担当者が心掛けていること

- 県民（当事者）視点を忘れないこと
- その仕事の楽しみを見つけること
- 市町村支援にあたっては、事業計画面と財源確保面の両面から支援すること（事務職と技術職がチームで支援）
- 小さい成功体験を市町村担当者及び関係者と一緒に分かち合うこと
- 自分自身が他の地域支援事業や介護保険事業の各担当者との連携、さらには他部局との連携・協働を意識すること
- 自分一人では全てを解決することはできないことを認識し、庁内及び県内の支援者・協力者（仲間）を増やすこと

アウトリーチ型伴走支援

みやぎの戦略

市町村がその強みを活かし、地域の実情に応じた各事業を効果的・効率的に展開でき、そこに住む高齢者の普通の暮らしを支えることができるよう、**市町村担当職員の自発的な気づきと行動を引き出し**、地域課題の分析及び関係者間の合意形成等のサポートを行うことを目的とする。

- 各市町村がその強みを活かし、地域の実情に応じた総合事業等を効果的・効率的に展開でき、そこに住む高齢者の普通の暮らしを支えることができるようになるための支援
- 市町村担当職員等の行動変容を引き起こす支援

コーチングによる伴走支援

- 県内35市町村への支援
- 災害に強い支援（コロナ禍でも）



アウトリーチ型の市町村支援

やってみせ チーム支援（関係機関と連携、県他事業担当者と同行）

市町村との話し合い（関係者間の合意形成、支援における目標設定、課題整理のお手伝い）

市町村を分類化して横展開

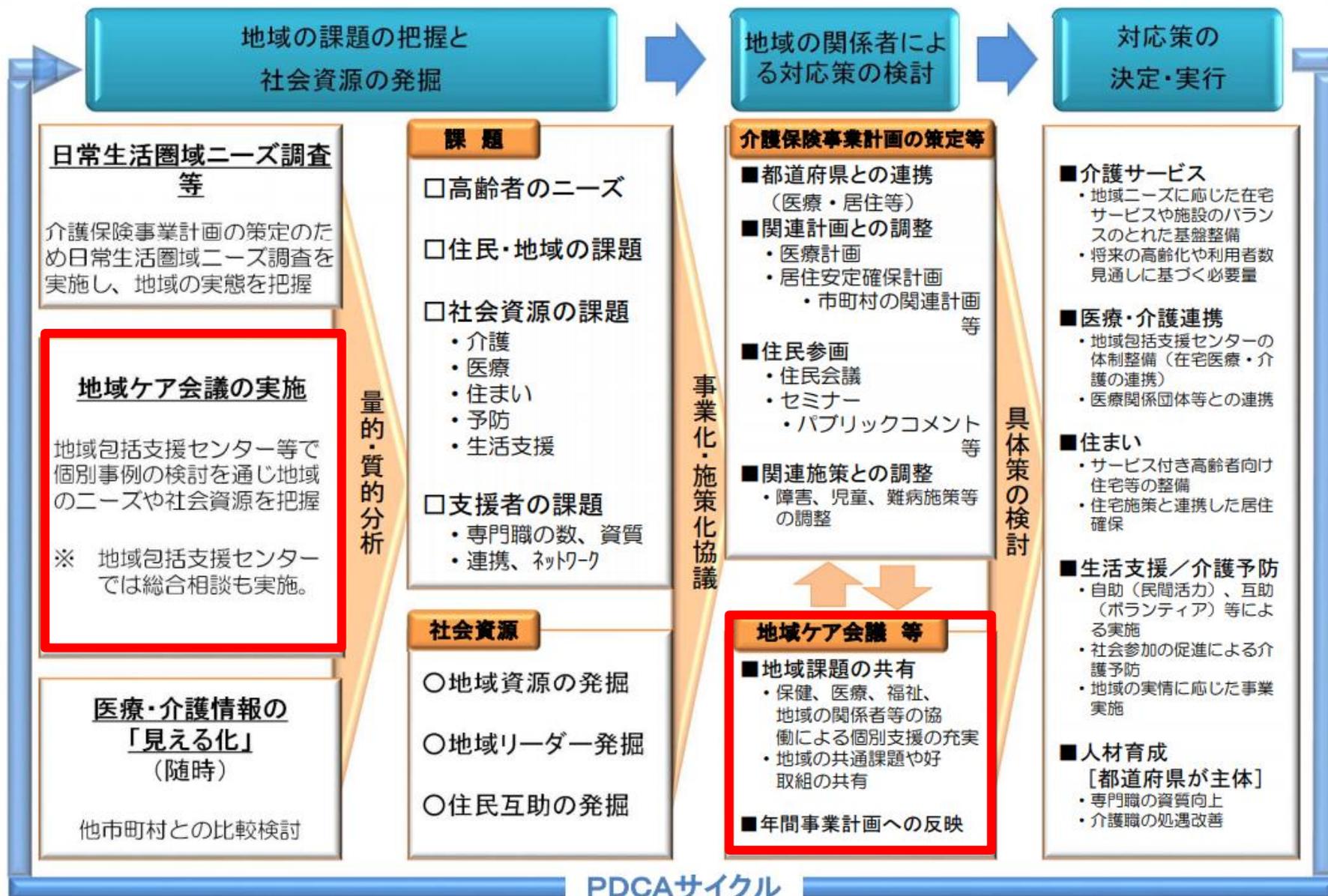
県内アドバイザーの育成

地域包括ケアシステムの深化・推進 に向けた地域ケア会議の実践について



宮城県保健福祉部長寿社会政策課
地域包括ケア推進班

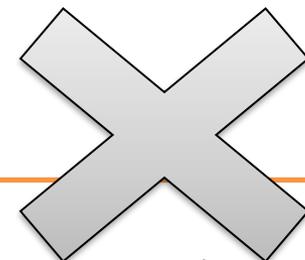
市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス(概念図)



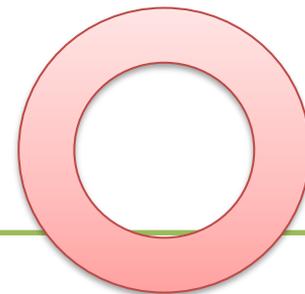
重要ポイント

地域ケア会議

(開催することが目的ではない)



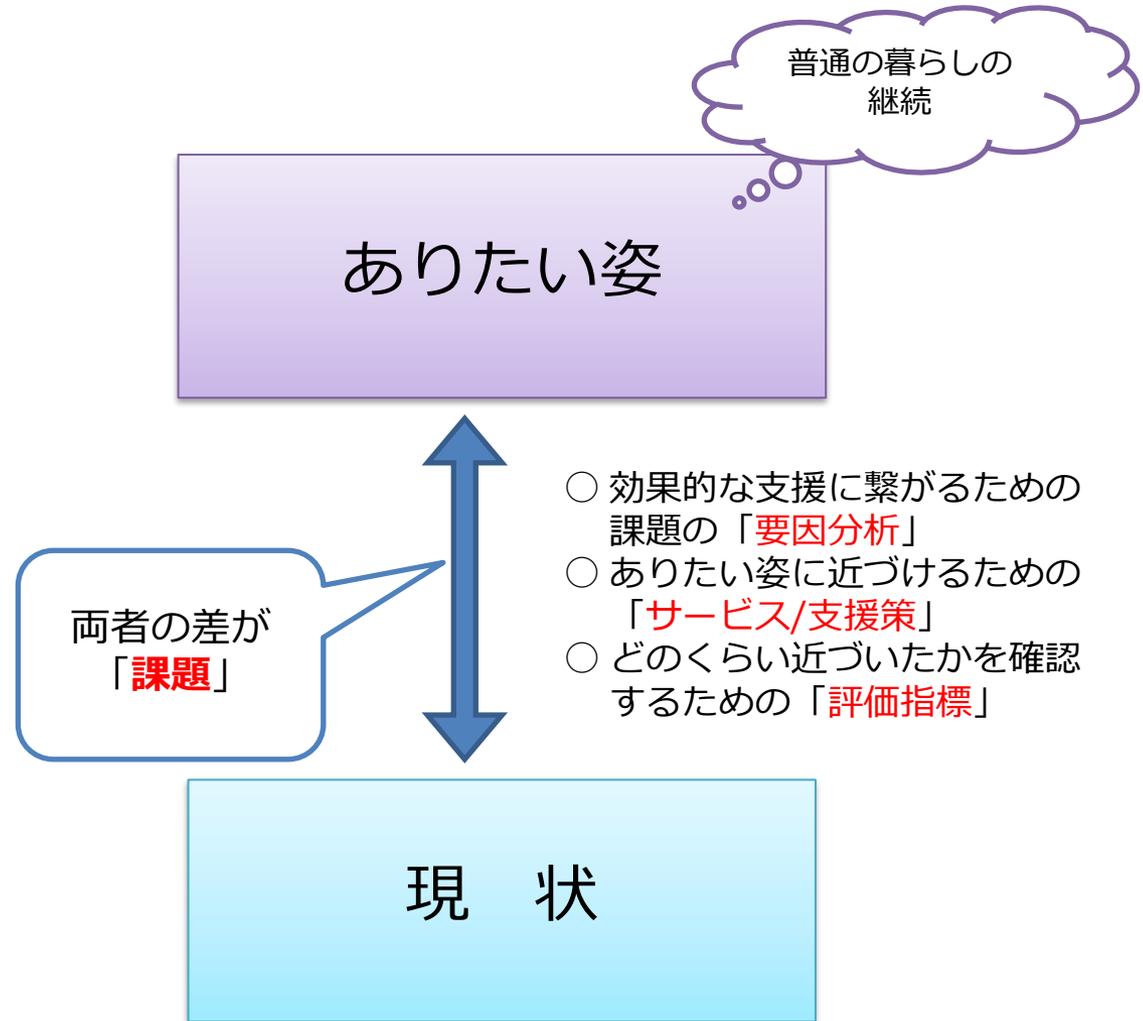
目的



手段

成果を出すための課題設定

- ありたい姿を描き、取り組むべきこと（課題）を設定
- 課題設定と検証を繰り返しているか（本当に解決すべき課題がどこにあるのか自問しているか）



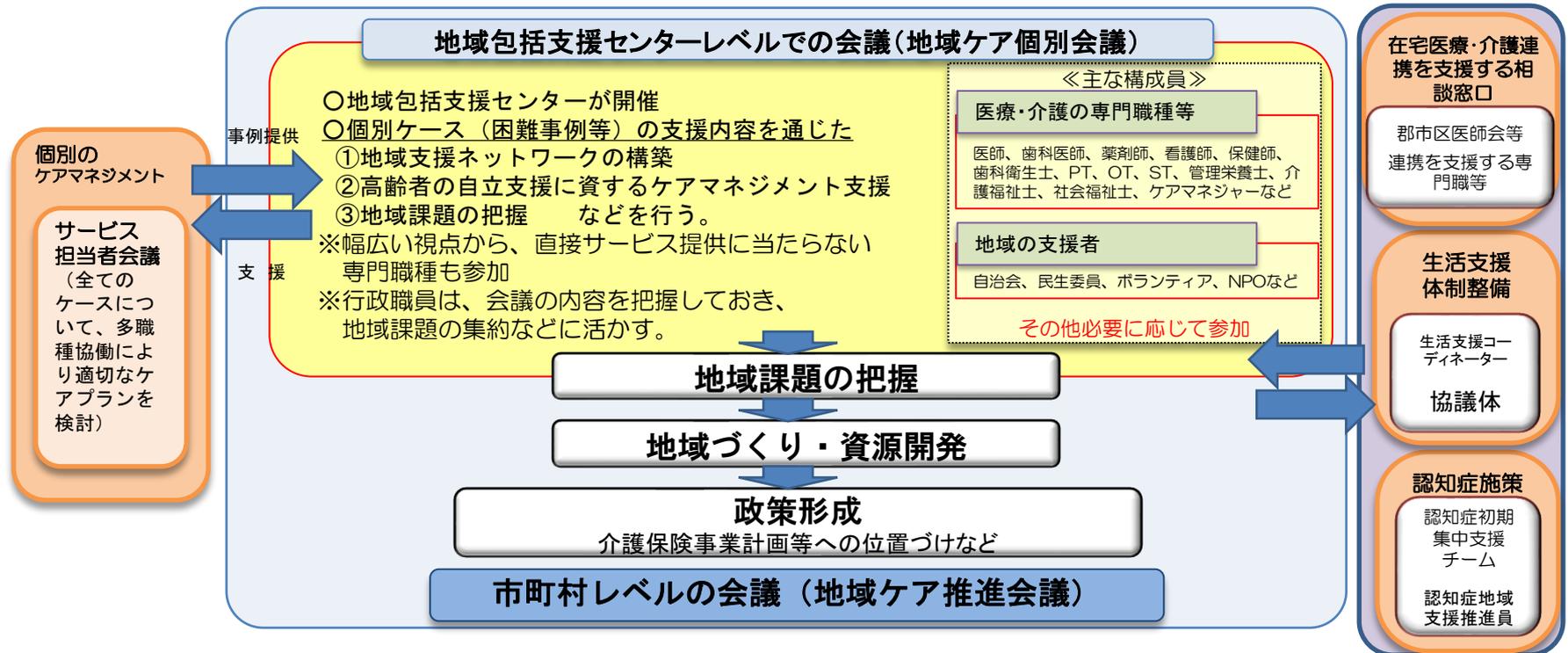
地域ケア会議の推進

地域包括支援センター等において、多職種協働による個別事例の検討等を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握等を推進する。

※従来の包括的支援事業(地域包括支援センターの運営費)とは別枠で計上

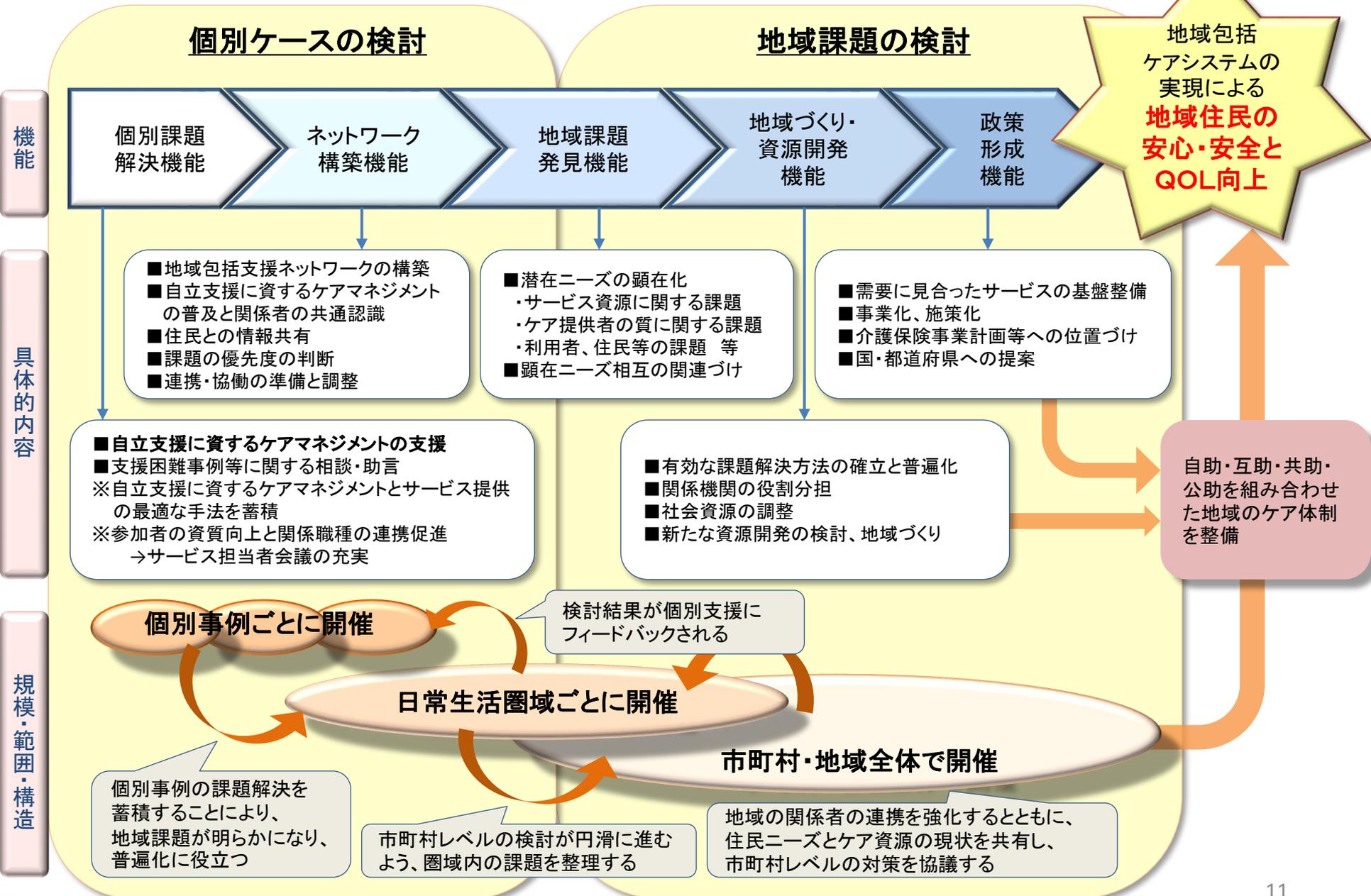
(参考)平成27年度より、地域ケア会議を介護保険法に規定。(法第115条の48)

- 市町村が地域ケア会議を行うよう努めなければならない旨を規定
- 地域ケア会議を、適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うものとして規定
- 地域ケア会議に参加する関係者の協力や守秘義務に係る規定 など



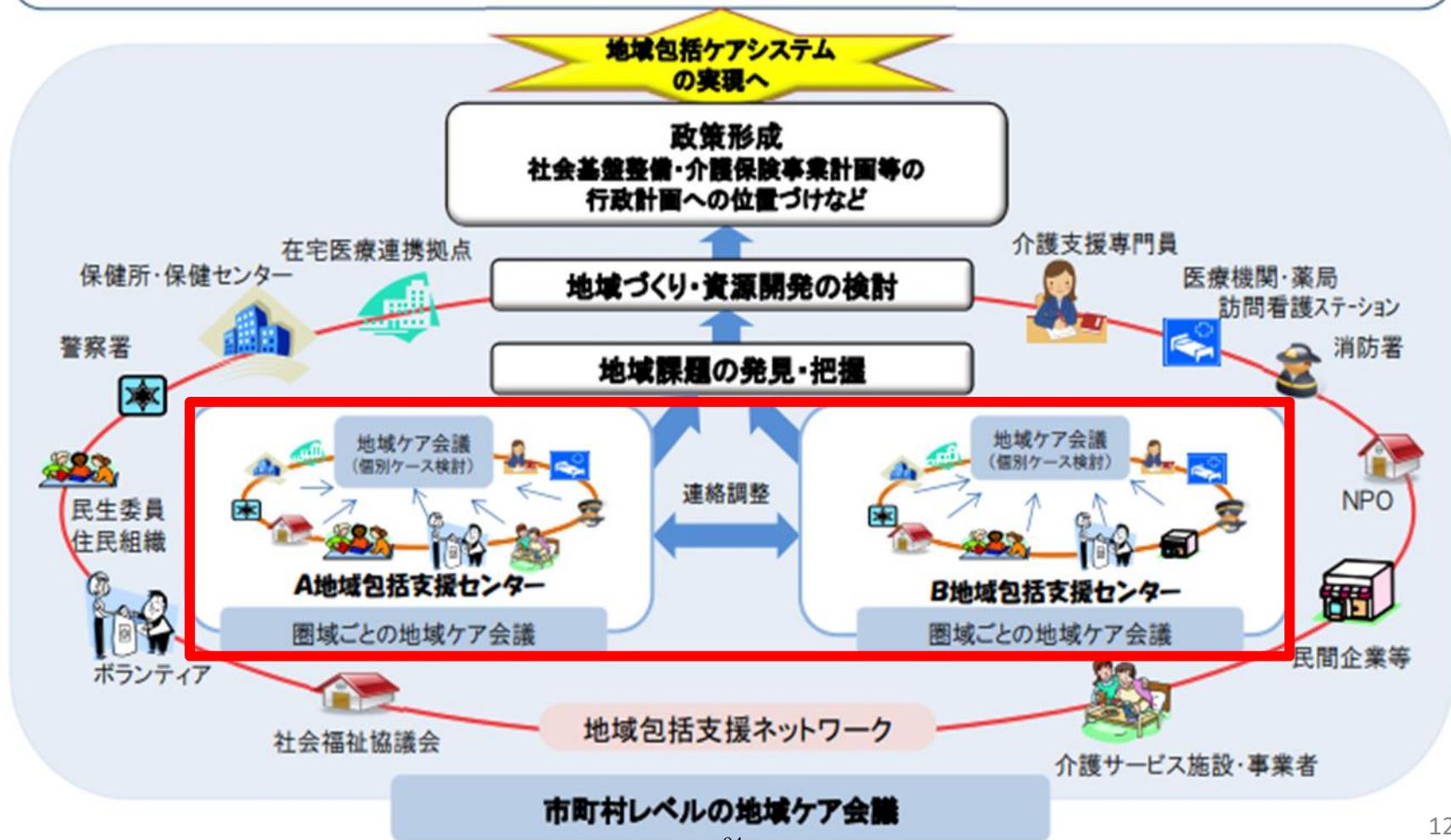
出典:平成30年1月 厚生労働省老健局振興課「生活支援体制整備事業と地域ケア会議に求められている機能と役割について」

「地域ケア会議」の5つの機能



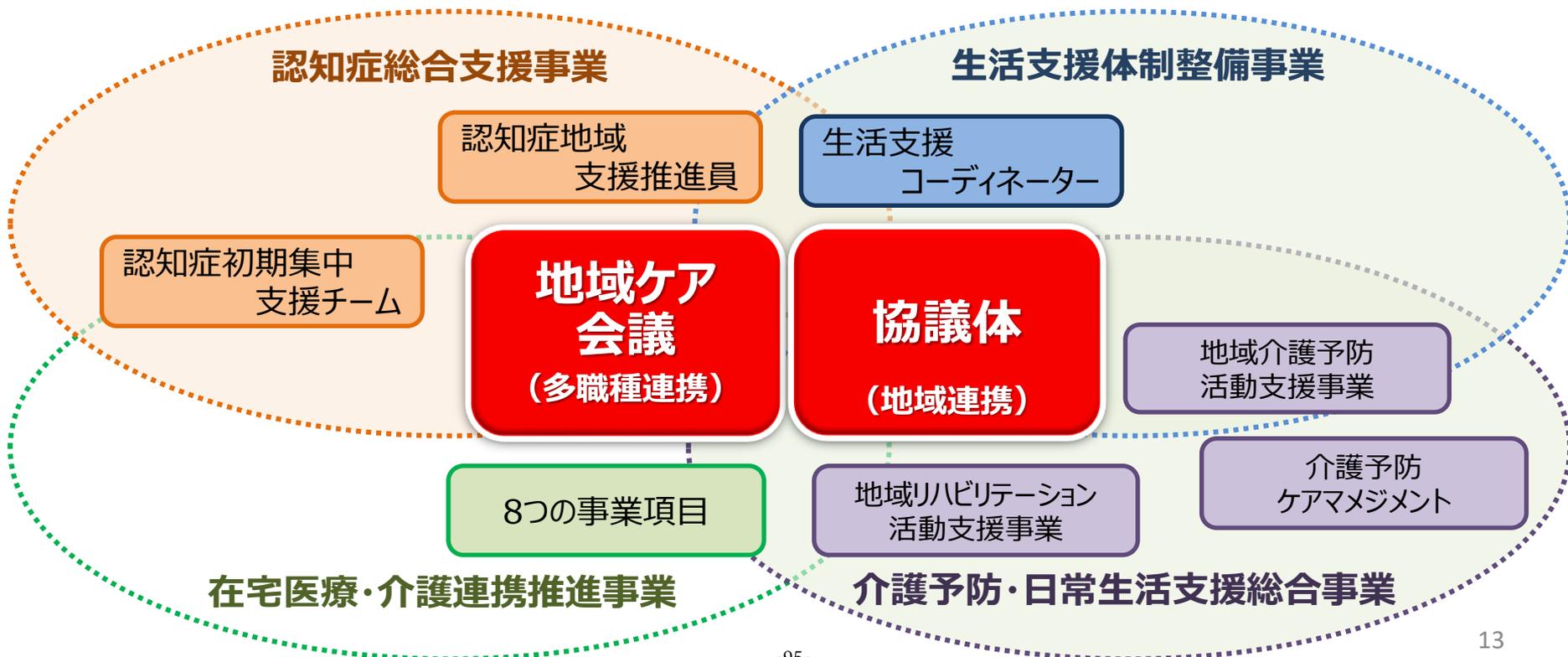
「地域ケア会議」を活用した個別課題解決から地域包括ケアシステム実現までのイメージ

- 地域包括支援センター(又は市町村)は、多職種協働による個別ケースのケアマネジメント支援のための実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、必要に応じて、そこで蓄積された最適な手法や地域課題を関係者と共有するための地域ケア会議を開催する。
- 市町村は、地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくために、代表者レベルの地域ケア会議を開催する。ここでは、需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行う。
- 市町村は、これらを社会資源として介護保険事業計画に位置づけ、PDCAサイクルによって地域包括ケアシステムの実現へとつなげる。



地域支援事業の連動を意識する

- 高齢者施策における地域包括ケアシステムの構築の目的は、“住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける”こと。
- 各事業はあくまでも地域を支援するための手段（ツール）であり、それぞれの事業実施が目的（ゴール）ではないことに留意する必要がある。
- 住民を含む関係者と考え方や方向性を共有し、多職種や多機関が連携して地域全体を支えることが必要であり、各事業の関連性を活かすためにも“場”としての地域ケア会議や協議体を活用することが重要。



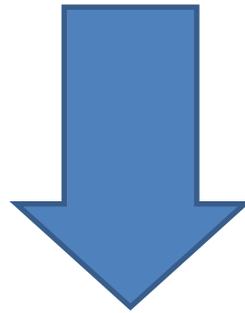
県内市町村における地域ケア個別会議 開催による効果

- ケアマネジメント及びケアの質の向上
- 総合事業における多様なサービスと連動によるサービス利用の意識向上
- サービス資源の把握，地域課題の発見，地域づくりの情報集積
- 医療・介護等専門職のネットワーク構築
- 地域に根ざした保健・医療職の育成
(医療職も地域を知るととても良い機会となっている)



本県が目指すところ

地域包括ケアシステムの推進のため、担当者1人では気づきにくい課題を多職種の視点を加えて見つけ、解決の可能性を探るために地域ケア会議を実践する。



住み慣れた地域で

暮らし続けることのできる

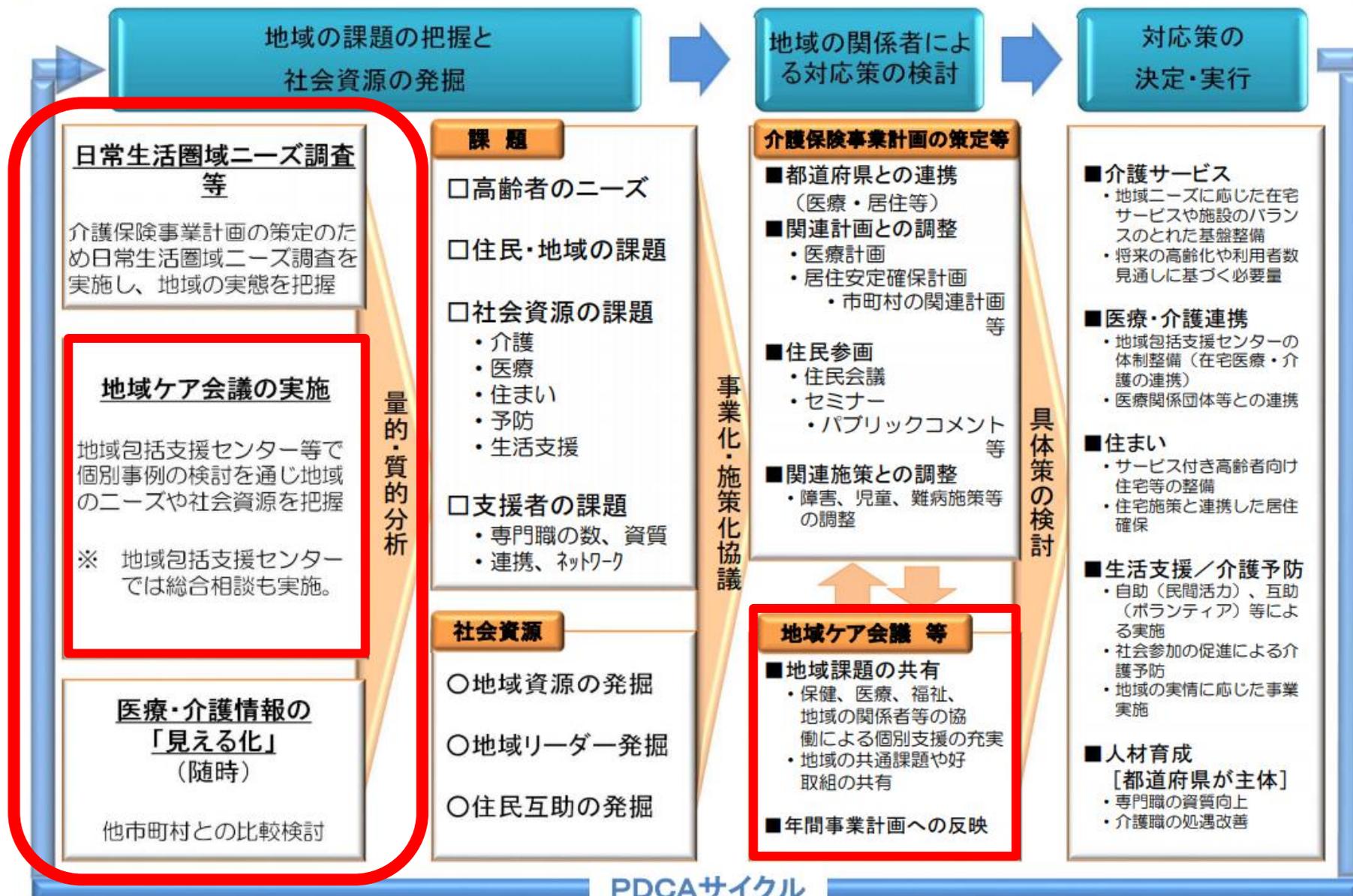
限界点を高める

地域包括ケアシステム構築の プロセスにおける地域ケア会議の 役割について

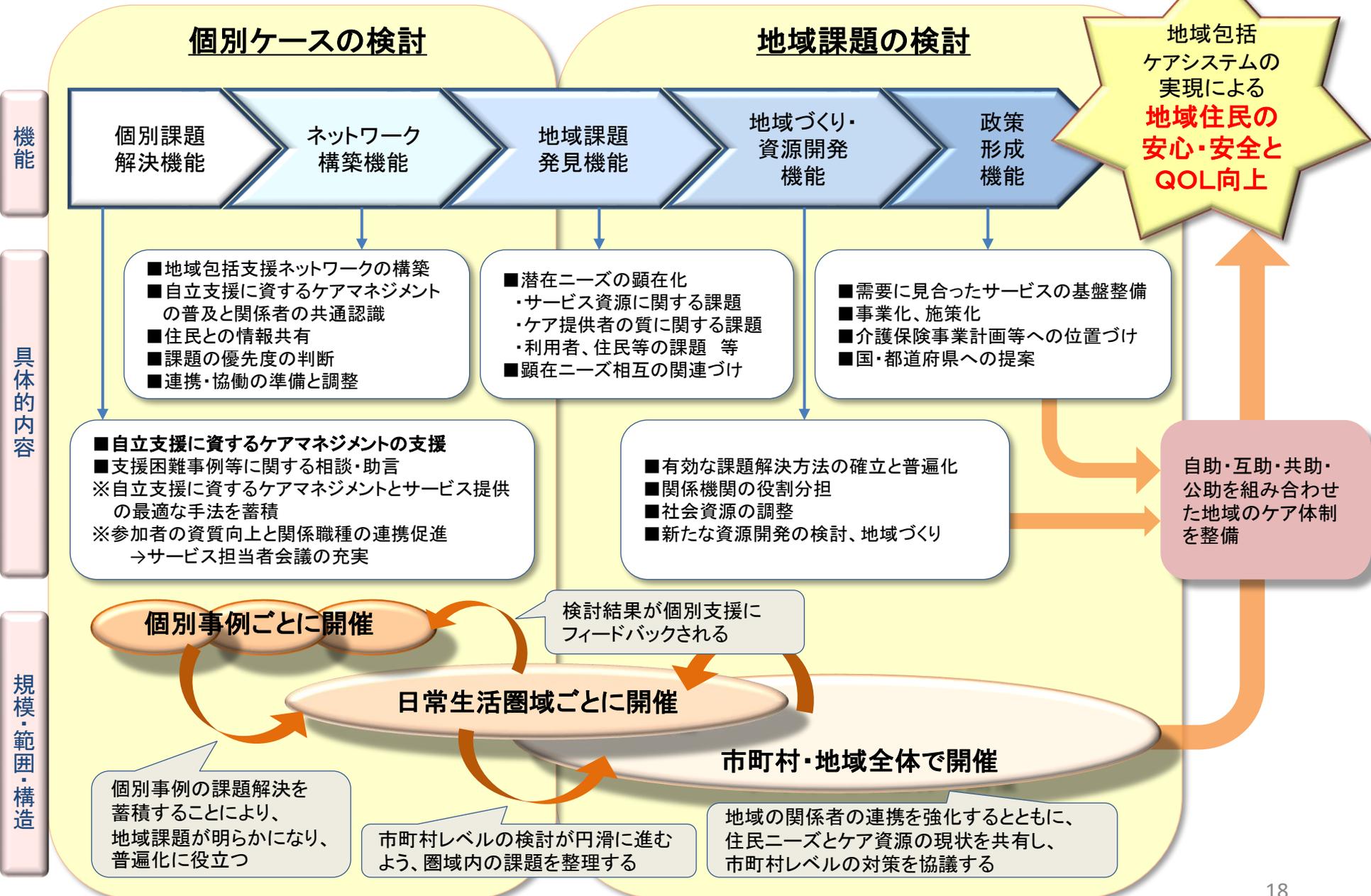


宮城県保健福祉部長寿社会政策課
地域包括ケア推進班

市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス(概念図)



「地域ケア会議」の5つの機能



※地域ケア会議の参加者や規模は、検討内容によって異なる。

地域課題分析の目的

- 塩竈市は「いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまち」の実現を目指す！



- 実現に向けた成果を出せる効果的かつ効率的な事業を実施したい！



- 現状の把握と分析，課題の整理，対応策の立案

事業の成果が出ない・見えないといった理由の多くは、その事業（手段）を実施することが目的になっているため。

お互いの強みを活かした現状分析

市町村

- KDBシステム
- 地域包括ケア「見える化」システム
- 国勢調査 等



定量的データ

地域包括

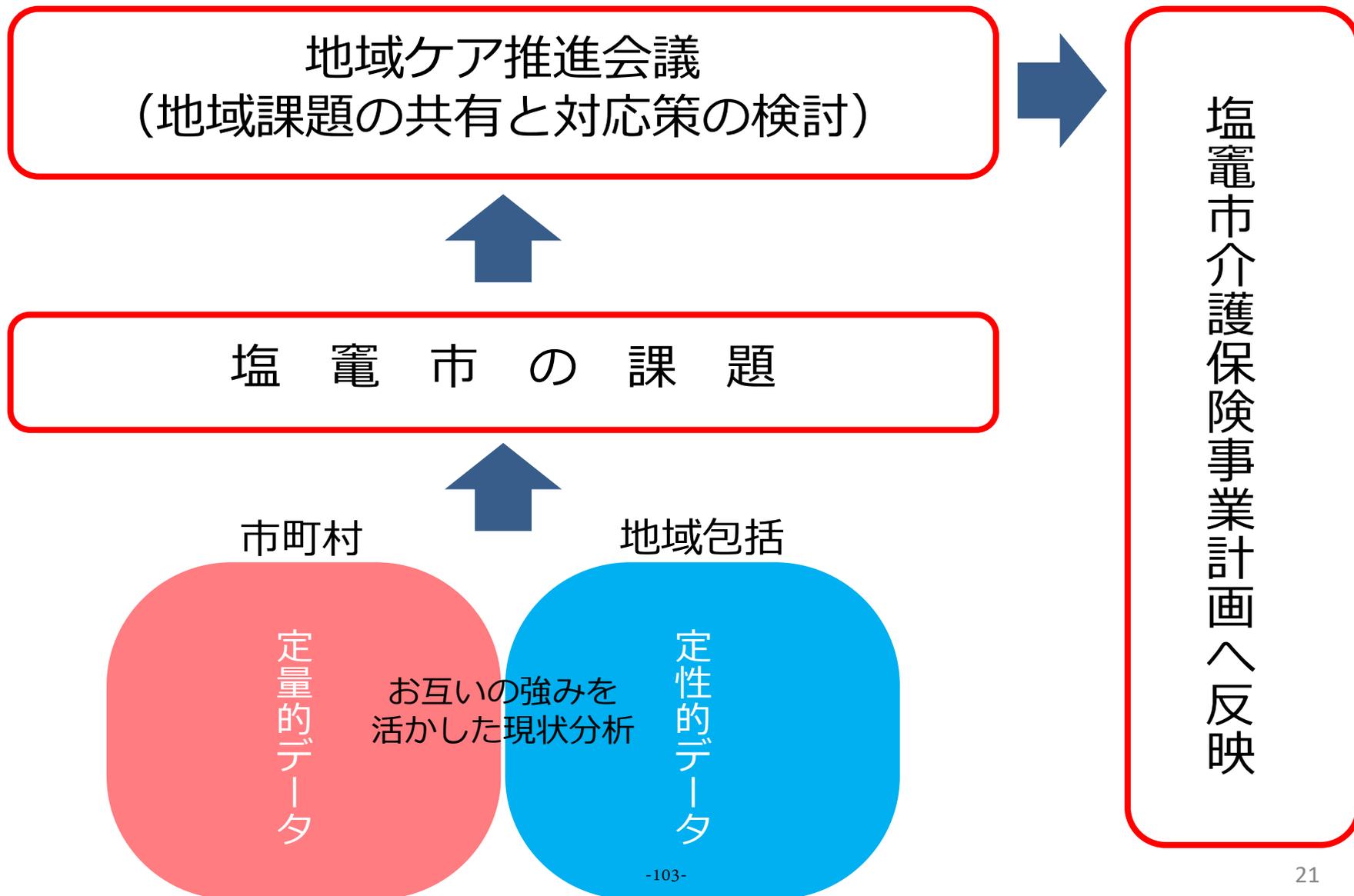
- 地域ケア会議の結果
- 通いの場参加者の声
- 介護予防教室参加者の声
- 認知症カフェ参加者の声
- 地域包括支援センター総合相談
- 協議体の意見
- 生活支援コーディネーターが集めた情報
- ケアマネジャー連絡協議会からの情報
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等

定性的データ



強 み

現状分析から課題と対応策へ



個別ケース検討の積み重ねによる政策提案への視点(一例)

地域ケア個別会議から見えてきた課題

ケースに共通する課題

認知症

- ・地域で認知症高齢者が増加。
- ・認知症についての住民の理解が進んでいない。
- ・認知症の見守り体制が不十分である。

閉じこもり

- ・集合住宅での高齢化が進み訪問サービスが増えている。
- ・地域行事への高齢者の参加が減ってきている。

生活支援

- ・ゴミ出しができない人が増加している
- ・病院に行きたいが移動手段が不足。



多職種

地域ケア推進会議の開催

地域包括支援センターと市町村職員が中心となり地域の課題を共有する。

参加者の選定

【認知症】

- ・民生委員や住民組織の代表者
- ・認知症の専門医師
- ・地域づくり関係課職員 等

【閉じこもり】

- ・集合住宅の自治会代表者
- ・ボランティア団体等の代表者
- ・生活支援コーディネーター等

【生活支援】

- ・介護サービス事業者
- ・民生委員や住民組織の代表者
- ・生活支援コーディネーター等

課題を踏まえた提案

【認知症】

- 認知症に関する普及啓発事業等の実施

【閉じこもり】

- 集合住宅の自治会との情報交換会の開催

【生活支援】

- ・担い手の養成
(協議体との連携も可能)
- ・住民周知の為のフォーラム開催

市町村における施策の展開

認知症サポーターの養成による見守り体制の強化

団地内での通いの場の開催

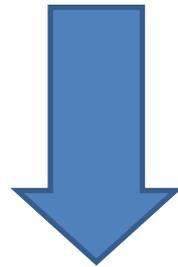
生活支援サービスの展開



多機関

本県が目指すところ

地域包括ケアシステムの推進のため、担当者1人では気づきにくい課題を多職種の視点を加えて見つけ、解決の可能性を探るために地域ケア会議を実践する。



住み慣れた地域で

暮らし続けることのできる

限界点を高める

